

一秒時ノ速度尺	二二三〇	三二五五	四二六〇	五二三五	六二三五	七二四五
挽力(英斤)	一六〇斤	二二〇斤	九〇斤	六二斤	四〇斤	三三斤

車輪ノ地上ニ於ケル壓力ハ荷物重量四分ノ三乃至六分ノ五ニシテ千斤ヲ積ム四輪車ナレハ

乾燥硬固ナル堤狀路	軟土ノ堤狀路	小礫ヲ鋪カサル硬土	尋常ノ徑路	小礫ヲ堤狀新布	深砂アル土地
一八斤	二六斤	四一斤	九二斤	一三〇斤	一九一斤

鐵道線上ナレハ二百斤乃至三百斤ヲ運搬スルニ僅ニ一斤ノ挽力ヲ要スルノミナリ

### 第七章 土地諸項

#### 第一 土地撰定ノ方法

國ヲ去テ一タヒ室蘭若クハ小樽ニ上陸シ札幌ニ來レハ其經過スル所概チ曠原平野ニシテ天高ク地廣ク眼界涯際ナカルヘシ而シテ其榛莽ニ委スルモノ十ノ八九ニ居ルヲ視テハ忽チ起業心勃然トシテ興リ農業牧畜手ニ睡シテ成スコトヲ得ヘシトシテ會テ猫額大ノ田圃ヲ耕耘シタルモノモ一躍シテ大農業ヲ經營セント企望シ自ラ其大ニ失シタルヲ知ラス或ハ幾十萬或ハ幾十町ノ土地貸下ヲ得ント欲シ之レヲ他ニ問ヘハ彼ハ某ノ貸下地ナリ此ハ某ノ出願地ナリト殆ント寸地ヲ餘サ、ルモノ、如シ是ニ於テカ折角ノ抱負モ失望ト化シ一喜一憂時トシテハ官衙ニ就キ時トシテハ知人ニ頼リ土地撰定ヲ爲スノ必要ヲ生スルニ至ル適當ノ土地ヲ撰定セント欲スルモノハ何人モ土地廣大ニシテ肥沃交通至便ニシテ氣候中和ナル所ヲ得ントス然レトモ年々歳々此同一ノ目的ヲ以テ土地ヲ得ルニ汲々タルモノ陸續輩出セハ逐年却テ反對ノ結果ヲ見ルニ至ラントスルモ強チ無理ナラサルヘシ況ヤ不知案内ノ土地ニ於テ不慣レノ事ヲ爲ス勞苦是レヨリ大ナルハナシ府縣人士ニシテ北海道ノ土地撰定ヲ爲スモノ往々此憾アルヲ免レス去レハ北海道廳ニ於テハ置廳ノ始(明治九年)ヨリ殖民地撰定ノ業ヲ起セリ蓋シ從前是等ノ調査ナキカ爲メ移民ヲシテ往々土地ノ撰定ヲ誤リ開墾著手ノ後或ハ地味粗惡或ハ水旱ニ罹リ數年ノ勞力水泡ニ屬シ終ニ離散スルノ不幸ニ陥ラシムルノ例ニ乏シカラス故ニ全道ノ原野ヲ跋涉シ地勢地積及土壤ノ性質ヲ視察シ若クハ水害ノ有無交

通運輸ノ便否等ヲ調査シ之レカ地圖ヲ製シ詳細ノ説明ヲ付シ移民ノ指南車タルコトヲ期セラレタリ然リト雖モ已ニ其撰定ヲ了リタルハ所謂大原野ニ屬スル二十八億萬坪ニシテ小原野ニ至リテハ未タ調査ノ及ハサル處極メテ多シ故ニ尙各自撰定ノ勞ヲ取ラサルヘカラスル場合少ナシトセス百聞一見ニ若カストハ誠ニ金言ニシテ風土ノ異ナル北海道ニ於テ農業ヲ以テ立脚ノ地トナサント欲スルモノハ殊ニ土地ヲ探究スルノ必要アリ依テ是レヨリ土地撰定ノ順序並ニ準備ノ梗概ヲ説クヘシ

一土地撰定ニ關シ一覽スヘキ書籍ハ北海道殖民地撰定報文、同附屬圖、殖民地區畫割圖、第四北海道移住案内、地形測量切圖、北海道地質報文等ト是等ノ報文又ハ地圖ニ依リ大體ノ方向ヲ定メ然ル後愈々實地ヲ踏破シテ探究スルヲ要ス

二探究ノ方法ニ至リテハ時期ト場所トニ依リ自ラ異ナリト雖モ先ツ左ノ心得ナカルヘカラス是レハ多年殖民地撰定ニ從事シタルモノ、述懐ナリ

第二 北海道未開原野巡檢心得

北海道ノ事物ハ自ラ内地ト異ナリ内地人士ノ未タ曾テ經驗セサルコト多キカ故ニ當道未開原野ヲ巡檢スル旅裝ノ用意及巡檢ノ要點ヲ心得サルヘカラス旅裝ノ用意ハ場所ニヨリ自ラ別アリ既成部落ニ近接ノ地ニシテ旅亭若クハ農家小屋等アル所ニ於テハ食料夜具等ヲ携帶スルノ必要ナキモ人家ヲ距ル遠キ所ニ於テハ食物ハ勿論雨露ヲ防キ併セテ夜間ノ寒冷ヲ凌クニ足ルヘキ衣類ヲ用意セサルヘカラス幸ニ本道ハ日進月化數年前トハ大ニ其情況ヲ異ニシ僅ニ四五年前ニアリテハ人烟絶無ノ所モ今ハ一部落ヲナシ旅亭アリ

リ商家アリ或ハ當時殆ント入ルヘカラス原野モ今ハ道路アリテ車馬ヲ通シ或ハ徑路アリテ人馬ノ通行自在トナリ容易ニ原野ニ入ルノ利便アルノミナラス荆棘ノ中ニ方向ヲ失ヒ野宿スルコト數日爲メニ食物欠乏シ進退維谷ルカ如キ場合ニ陥ルコト少ナキニ至レリ

北海道ハ内地ト其事情ヲ異ニシ僻遠ノ寒村ト雖モ旅人宿ノ招牌ヲ掲グル旅亭ニハ常ニ其土地ニ於テ得ラル、魚菜類ヲ貯フルノミナラス大阪酒、札幌若クハ獨逸製ノ「ビール」、罐詰ノ牛肉、松茸、筍等ノ蓄藏アリ斯ノ如キ旅亭ニ止宿シ附近ノ原野ヲ檢分スルニハ別ニ食物ヲ携帶スルヲ要セサルモ旅店ナク或ハ僅ニ雨露ヲ凌クニ足ルヘキ農家小屋アル所ニ於テハ米味噌ノ用意ハ云フ迄モナク之レニ伴フ食物ヲ要ス最モ河川ノアル所ナレハ釣針ヲ携帶スレハ期節ニ依リ「ヤマベ」、「ウゴイ」等ヲ釣り食用ニ供スルヲ得ヘキモ罐詰若クハ鹽漬燻製ノ肉類ヲ携帶スルヲ可トス且ツ夜間ノ寒冷ヲ凌クニ毛布二三枚ハ必ス欠クヘカラス雨露ヲ凌クヘキ小屋ナキ原野ヲ巡見スルコト數日以上ニ亘ルトキハ天幕ノ用意ナカルヘカラスルモ其量重クシテ運搬ニ不便ナリ故ニ「ツック」地ヲ大幅三四枚縫合セ屋根ニ充ツルモノ可ナリ然レトモ油紙三四枚ヲ用意シ之レヲ張りテ屋根トシ其下ニ夜間ヲ過スハ最モ輕便ト云フヘシ若シ不幸ニシテ夜間降雨アリ或ハ強風吹クトキハ大ニ困難ヲ感スルコトアリ屋根覆ノ外座臥用トシテ薄縁或ハ藁ヲ携帶スレハ敢テ差支ナキカ如シト雖モ地下ヨリ蒸發スル濕氣ヲ防カントスレハ熊皮若クハ犬皮ヲ敷クヲ可トス又鍋二枚茶碗各一個ツ、ヲ用意スヘシ

晩秋ヨリ早春ノ交ヲ除クノ外未開原野ニハ蚊、蛇及糠蚊多シ故ニ蚊帳ヲ用意セサレハ安眠スルコト能ハ

ス糠蚊ハ其形微小ニシテ普通ノ蚊帳ナレハ其目ヨリ自在ニ出入スルヲ以テ寒冷紗製ノモノニアラサレハ其用ヲナサス通路ナキ樹林筈叢若クハ雜草中ヲ跋涉シ身體非常ニ疲勞シ歸宿シタル後夜中安眠スルコト能ハサルトキハ神身益勞働シテ原野探檢ノ目的ヲ達スルコト能ハサルコトアリ故ニ寒冷紗製ノ蚊帳ヲ用意セサルヘカラス前述ノ如ク旅店ノ有無ニ依リ自ラ携帶スヘキ物品ニ差異アリト雖モ探檢スヘキ原野ノ遠近ニ拘ハラズ必ス用意セサルヘカラスモノアリ即チ之レヲ左ニ記スヘシ

一地圖

實測圖アレハ此上ナキモ未タ實測圖ナキ地方ナレハ略圖ニテモ携帶スルヲ必用トス未開原野ハ草木繁茂シ其高サ殆ント人頭ヲ没シ遠見スルコト能ハサルヲ以テ斯ノ如キ原野ヲ調査スルニハ圖面ニ依リ進行スル所ヲ記憶セサルヘカラス否ラサレハ忽チ途ヲ失シ非常ノ困難ニ陥ルコトナシト云フヘカラス

一懷中コンパス(磁石)

密林雜草中ニテ方向ヲ定メス漫然跋涉スルトキハ往々方向ヲ失シ原野探檢ノ目的ヲ達スル能ハサルコトアリ故ニ磁石ノ携帶ヲ必要トス

一鍬或ハ鋤

是レハ土性鑑定ノ爲メ必要ナリ農牧地トシテ土地ノ適否ヲ鑑定スルニハ表面ヨリ地下三尺以上ノ土質ヲ檢分セサルヘカラスモ農作物カ其養生分ヲ吸收スルハ表層數寸ニアルカ故ニ普通ノ場合ニ於テハ穿土器ヲ用キサルモ鍬又ハ鋤ニテ足レリトス

一山刀(人夫各自ニ携帶セシムル)

原野ヲ跋涉スルニ方リ樹木枝葉ヲ交ヘ或ハ葛蔓ノ纏綿スルアリテ之レヲ切斷セサレハ通行スル能ハサル所アリ或ハ河流アリテ徒渉スヘカラスニ至レハ木ヲ倒シ橋梁ヲ架スル等山野跋涉ニハ欠クヘカラスナル用具ナリ

一覆面紗

本道未開原野ニハ蛇又ハ糠蚊ト種スル最小ノ害蟲又ハ大小ノ蛇アリ群集シテ襲來シ其惱殺名狀スヘカラス場所ニヨリテハ殆ント呼吸スルコト能ハス故ニ來襲ノ煩ヲ避ケンカ爲メ面部ヲ覆フ一種ノ蚊帳ヲ用意セサルヘカラス最モ十分ニ之レヲ避ント欲セハ面部ノミナラス手ニハ手袋ヲ著ケ足袋ト脚半ノ間ニ皮膚ノ露出セサル様足袋ノ下ニ厚キ靴下ヲ著ケ毫モ皮膚ノ露出セサルヲ要ス

一鷹丁足袋

場所ニ依リ二日乃至五日ニ一足ノ割ヲ以テ携帶スヘシ但シ綿布、針、絲等ヲ兼テ用意シ破損ノ個所ヲ修繕セハ尙數日間使用スルニ足ル

一草鞋(二日ニ一足ノ割)

旅店アル場所ハ概チ其貯藏アルヲ以テ用意スル必要ナキモ旅店ナキ原野ニアリテハ二日ニ一足ノ割ヲ以テ携帶スヘシ靴ハ河川ヲ渡リ或ハ木ヲ倒シ架設シタル丸木橋ヲ渡ル等不便少ナカラス

一衣服ノ種類

著服ハ白色ノモノヲ可トス黒色ノモノニハ蚊蚋ノ屬群來ス其濃淡ノ度ニヨリ其群集ニ差アルハ奇ト云フヘシ山野跋涉ノ衣類中「ツボン」ノ如キハ殊ニ地質ノ厚キヲ可トス是レ薄地ナルトキハ荆棘中ニ於テ草木ノ爲メニ肉ヲ刺衝セラレ不快ヲ感スルコトアリ

一辨當ノ準備

早朝旅宿ヲ出テ日没ニ歸著スルトキハ一度分ノ辨當ヲ用意スレハ足レルカ如シト雖モ案内者ノ過失ヨリシテ途ヲ失ヒ當日歸著スル能ハサルコトナシトセス或ハ夜ニ入り延著スルコトアリ故ニ兩三度分ノ燒飯又ハ握飯ヲ携帯スルハ決シテ無益ノコトニアラス

一飲料

途中渴ニ迫ルモ成ルヘク河水ヲ飲マサルヲ可トス何トナレハ原野ノ河水ハ清澄ノ如ク見ユルモ有機物ヲ含有スルヲ以テ「マラリヤ」病ニ罹ルコトアリ故ニ沸騰シタル湯ヲ硝子瓶或ハ得利ニ入レ携帯スルヲ可トス但シ携帯中光熱ト體熱ニ依リ其味宜シカラサレトモ飲用前河川ニ投スルトキハ暫時ニシテ冷却セシムルヲ得ヘシ

前述ノ準備完全シタルトキハ原野ヲ探究スルヲ得ヘシ茲ニ所謂原野巡檢トハ拓殖ノ目的ヲ以テ原野ノ地形土質草木ノ種類及其生育ノ如何用水ノ便否等ヲ正式ニ調査スルヲ云フ

既成部落ニ近接シタル原野ニハ往々徑路アリテ歩行ニ便ナリ然レトモ斯ノ如キ徑路ハ概ネ原野中高燥ノ地ニシテ耕耘ニ最適ス去レト是レヨリ左右數十間ヲ隔ツレハ濕地ニシテ殆ント歩行スヘカラサル所

アリ或ハ土質劣等ナル所アリ徑路ノ左右ハ草木繁茂シ其高キコト人馬ヲ没シ遠望スル能ハス故ニ沿道數間ノ土質ヲ相シ全地ニ推及シ以テ耕耘適地ノ鑑定ヲ下スハ誤レルノ甚シキモノトス例之ハ河川ノ原野ヲ貫通スル所ニアリテハ沿岸高燥ノ所ニ徑路アルヲ常トス而シテ此沿岸ノ土地ハ俗ニ云フ河塵(沖積土)ヨリ組成シ頗ル膏腴ニシテ耕耘ニ適ス然ルニ原野探究ニ經驗ナキ人ハ此土地ヲ推シテ全地ニ及ホシ忽チ好土ノ誤評ヲ下スハ其常ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルヲ信ス故ニ土地ノ拓殖ニ適スルヤ否ヲ知得セント欲セハ必ラス荆棘ヲ倒シ道ヲ通シ深ク原野ニ入り土質草木ノ種類及其生育ノ如何ヲ探討セサルヘカラス

通路ナキ原野ニ入ラント欲セハ豫メ携帯スル圖面ヲ披キ進マントスル方向ヲ定メ行々磁石ヲ以テ方向ヲ過ラス成ルヘク一直線ニ進行スルヲ必要トス蓋シ方向ヲ定メス進行スルトキハ知ラス識ラス歩行シ易キ所ニ偏シ地形土質ノ實相ヲ探ル能ハサルノミナラス探究者其人ハ終日跋涉シテ土地ノ大勢ヲ知得シタルモノト思考スルモ焉ヲ知ラン其足跡ハ終ニ原野ノ一小部分ニ止マレルヲ原野ノ大勢ヲ知ラントスルニハ先ツ前述ノ方法ニテ足レリト雖モ尙詳細ノ調査ヲ遂ケントセハ原野ヲ縱横ニ跋涉セサルヘカラス而シテ此方法ヲ實行スルニハ人夫三名ヲシテ各十尺乃至十二尺ノ棒ヲ進行セントスル方向ニ直立セシメ俗ニ云フ「ボンデン送」ヲナシ進行スヘシ

土地探檢ノ好期節ハ仲春及晩秋トス此兩期節ニアリテハ草木ノ爲メ遠望ヲ妨ケラル、コトナク且ツ跋涉ニ便ナルヲ以テ成ルヘク此時ニ於テスルヲ可トス

又探究者ノ常ニ注意スヘキハ成ルヘク能ク原野ノ地勢ヲ知りタルモノヲ案内者トシテ使用スルニアリ  
扱テ斯ノ如クシテ實地ヲ踏査スルニ方リテハ豫テ土地ノ肥瘠ヲ考察スルノ標準ヲ知ラサルヘカラス其  
開墾地ニ適スルヤ否ヲ相スルノ簡易法ヲ解示スレハ概テ左ノ如シ

平原

河 湖 沼 沿岸樹林地

甲 乾 地 樹木 アカダモ、クルミ、クワ、ナ、ツバ、コ、ミ、ゲ、オ、ホ、バ、イ、ラ、サ、シ、モ、ツ、ケ、サ、ウ、(或ハトクサ)

乙 稍 濕 地 樹木 ヤチダモ、シコロ、ス、グ、ヤ、チ、ツ、バ、チ、ダ、ケ

丙 濕 地 樹木 ヤチダモ、ハ、ン、ノ、キ、疎生ノヨシ、ミ、ツ、バ、セ、リ、リ、ウ、キ、ン、カ

丁 過 濕 地 樹木 稀ニシテ或ハ矮小ノヤチダモ、ハ、ン、ノ、キ、疎生スルアリ或ハ全ク樹木ナキ所アリ

戊 乾 地 樹木 カシハ

右樹林地ニシテ耕作ニ適ス

己 泥炭濕地 樹木 地方ニ依リ矮小ノ灌木ヲ生スル所アリ又ハ生セサル所アリ

右改良ノ後ニアラサレハ耕作ニ適セス

草原地

甲 乾地ノ上 カヤ、ヨモギ、カラマツサウ、ハギ、アラビ、クサフゲ、タニワタシ

乙 乾地ノ中 カヤ、ワラビ、ハギ、ヨモギ

高原

樹林地

甲 樹木 ナラ、イ、タ、ヤ、ア、カ、ダ、モ、カ、バ、カ、ダ、ス、ギ、シ、ナ、ノ、キ

右乾燥ニシテ耕作ニ適ス

乙 樹木 ヤチダモ、エン、シ、ユ、カ、バ

右稍濕地ニシテ耕作ニ適ス

丙 樹木 カシハ

右牛馬豚ノ放牧ニ適スルノミ

爰ニ注意スヘキハ北海道ノ草木及原野ノ狀況ハ内地ト多少其趣ヲ異ニスルノミナラス假令同一ノ草木  
ニテモ其發生ノ好惡疎密ニ依リテ土性亦自ラ異ナルカ故ニ能ク所生ノ植物ニ注目スルト同時ニ土性如  
何ヲモ調査スルヲ可トス

以上掲記シタル所ニ準據シテ土地撰定ニ從事セハ其レ誤ナキニ庶幾カラシ

第三 土地貸下ノ手續

北海道廳ノ指示ニ依リ若クハ自己ノ希望ニ任セ土地ノ撰定ヲ了シタルトキハ相當ノ土地貸下ヲ出願セサ

ルヘカラス北海道ニ於ケル未開原野ノ貸下拂下ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則並同二十六年北海道廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續ニ依ルモノニシテ其詳細ニ至リテハ該規則及手續ヲ熟讀スレハ了解スルヲ得ヘシト雖モ實際ノ取扱ヲ知ラサルトキハ如何セハ可ナルヤ往々疑惑ヲ生シ空シク無用ノ日子ヲ費シ爲メニ移住開墾ノ期ヲ失シ少ナカラサル勞費ヲ水泡ニ歸スルコトアリ依テ左ニ其手續ノ順序ヲ略叙シ次ニ心得置クヘキ必要ノ規則類ヲ掲クヘシ

(一)貸下希望地ハ區畫地ナルヤ普通原野ナルヤ官林等ナルヤ否ヲ篤ト取調ヘ區畫地ナレハ其貸下ノ期ヲ待テ出願シ普通原野ナレハ隨時出願シ官林等ナレハ其解除ノ時ニ至リ出願スルヲ至當ノ順序トス但シ殘區畫トテ一旦或區畫原野ノ貸下ヲ了シタル後再ヒ明地ヲ生シタル時又ハ排水ノ爲メ多クノ資本ヲ要スル個所ニシテ何時ニテモ出願シ得ルモノハ此限ニアラスト知ルヘシ

(二)貸下地所在ノ有無ヲ知ラント欲セハ區畫地ハ北海道廳殖民課普通原野ハ同上殖民課、其派出所若クハ最寄郡役所戸長役場ニ就テ問合スルヲ宜シトス

(三)土地貸下願ヲ差出スニハ區畫地ナレハ直接北海道廳ニ其他ハ地元戸長役場郡役所ヲ經由スヘシ但シ普通原野三萬坪以下ハ地元戸長役場ヲ經テ郡役所ニ差出シ殖民課派出所アル所ハ三萬坪内外ヲ問ハス同派出所ニ差出スモノトス而シテ願書ニハ必ス起業方法書、圖面區畫地ハ其線番地及公署ノ證明アル全戸籍寫ヲ添付スヘシ尤モ區畫地三小區畫以上普通原野十萬坪以上ナルトキハ官衙ノ證明アル財產調ヲ添付シ且事業設計書ヲモ添付スヘシ又新來ノ移住者ニシテ原籍官衙ノ證明書又ハ添翰ヲ有スルモノハ之レヲ

土地貸下願書ニ添付スルニ若クハナシ

(四)氏名確定ノ團結移住者ニシテ原籍府縣知事ノ認可ヲ得タルモノハ北海道廳ニ願出テ其指揮ニ依リ貸下豫定地ノ存置ヲ請フヘシ

(五)右ノ順序ヲ履行シテ土地ノ假引渡ヲ受クルカ又ハ土地貸下ノ許可ヲ得タルトキハ直チニ開墾ノ準備若クハ開墾ニ著手スヘシ

(六)假令土地貸下願書ヲ差出シタリトテ其許可ナキ間ハ決シテ伐木開墾スヘカラサルモノトス

#### 第四 北海道土地貸下拂下規則

##### ○閣令第十六號十九年六月北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ

第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數並事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ

北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス

第四條 貸下期限ハ十年以內トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年限ノ滿限ニ

際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依リテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ隨時其事業ノ現況ヲ點檢スヘシ

第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ

天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ

第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ

第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限中ト雖之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス

第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受タル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金一圓トシ成功ノ後之ヲ拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十ヶ年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス(本條二十二年開令第(二十八號ヲ以テ改正)

第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

附則

第十二條 (二十三年十二月開令(第八號ヲ以テ削除)

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲

第四號布達ヲ廢止ス

○北海道廳令第五號(二十六年三月二十四日)

明治十九年八月當廳甲第八號布達北海道土地拂下規則施行手續左之通改定明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

北海道土地拂下規則施行手續

第一條 規則第三條ニ依リ貸下クヘキ土地ハ當廳ニ於テ區畫ヲ施設シ毎年公告スヘシ

前項區畫外ノ土地ト雖豫メ區域ヲ指定シテ貸下クルコトアルヘシ

第二條 左ニ列記スル土地ハ前條ニ拘ハラヌ特ニ貸下ヲ許可スルコトアルヘシ

一宅地

二海産乾場

三牧場

四沿海ノ土地

五從前貸下ヲ受ケタル土地成功ノ上其地ニ接近シテ要スヘキ増地

第三條 土地貸下ヲ受ントスルモノハ願書(書式第一號) 二起業方法(書式第二號) 圖面(書式第三號) 區畫地ニ關及戶籍

寫原籍市町村長若クハ區ヲ添付シ地元戶長役場ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

但區畫地ヲ出願スル者ハ地元戶長役場ノ經由ヲ要セス(明治二十七年十二月廳令(第七十三號ヲ以テ追加)

第四條 規則第四條ニ依リ貸下期限ノ標準ヲ定ムル左ノ如シ  
耕地

十萬坪以下 十年以内

六萬坪以下 八年以内

三萬坪以下 六年以内

六千坪以下 四年以内

宅地 三年以内

海産乾場 三年以内

牧場 十年以内

第五條 起業方法書ニハ左ノ事項ヲ明確ニ記載スヘシ

一 願地ノ素地名稱坪數其所在國郡區番地又ハ字

二 樹木ノ有無其樹木アルトキハ全地ノ樹種目通周尺樹數

但十坪平均ノ樹數ニ依リ全數ヲ算出スルモ妨ケナシ

三 事業ノ目的

四 貸下ノ期限

五 貸下期限内毎々成功スヘキ配當(坪數耕宅地ニ限ル)

六 風除風致放牧薪炭用等ノ爲メ樹木存置ヲ要スルモノアルトキハ其坪數此坪數ハ出願總地積ノシ

七 建物ヲ造築スルモノハ其落成期限

八 漁具若クハ海藻採取具ノ種類員數及實地營業著手ノ期限(海産干場ニ限ル)

九 牧場柵圍間數及事業ニ要スル建物造築落成期限(牧場ニ限ル)

十 牧草畑地坪數及播種ノ期限(全上)

十一 牧畜ノ種類牝牡頭數及毎年蕃殖ノ豫算(全上)

第六條 土地貸下出願人ハ其地調査ノ爲メ吏員出張ノ通知ヲ受ケタルトキハ其地境界ニ假標ヲ建設シ現  
場ニ出頭シテ吏員ノ指揮ニ從フヘシ但第一條第一項區畫地ニハ本條ヲ適用セス

第七條 土地貸下出願人ハ許可書受領ノ日ヨリ三十日以内更ニ貸下地ノ境界ニ標木<sub>雜形</sub>ニヲ建設スヘシ  
但積雪ノ爲メ標木ヲ建設スルコト能ハサルトキハ消雪後速ニ之ヲ建設スヘシ

標木雜形

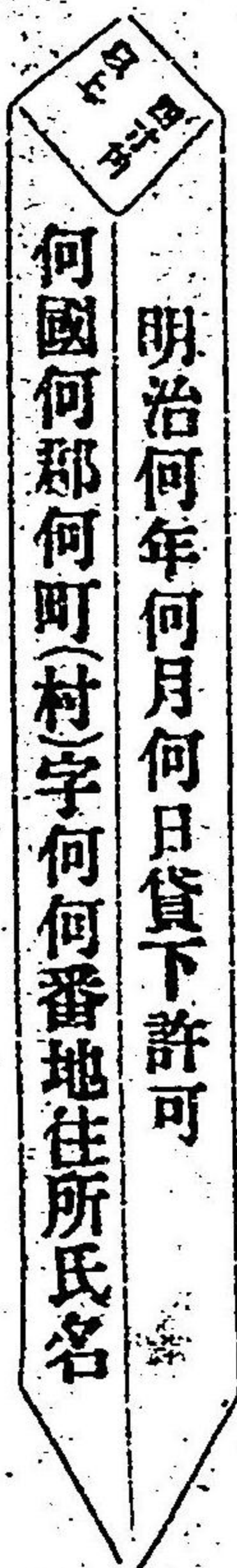
表



地上五尺以上

根入二尺以上

裏





第八條 土地貸下ノ期限ハ許可シタル翌年一月ヨリ起算スルモノトス

貸下指令以前ニ區畫地ノ引渡ヲ爲シタル場合ニアリテハ其翌年一月ヨリ起算スルモノトス(明治二十七年十二月)

月令第七十三號ヲ以テ改正

第九條 土地貸下ヲ得タル者ハ貸下期限中毎年事業ノ功程ヲ記載シ書式第四號 其翌年一月三十一日限り地元戸長役場ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第十條 規則第五條ニ依リ點檢スヘキ期日ノ通知ヲ受ケタル者ハ成功區域ニ標杭ヲ建設シ現場ニ立會スヘシ

第十一條 貸下滿期ニ至リ全地成功シタル者ハ土地拂下願書書式第五號ニ圖面書式第六號ヲ添付シ地元戸長役場

郡區役所ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ  
但川沼道路堤防鐵道線等ノ爲メニ生シタル缺地ナキ區畫ノ全部拂下ニ限り圖面ノ添付ヲ要セス(明治二十七年十二月令第七十三號ヲ以テ追加)

七年十二月令第七十三號ヲ以テ追加

貸下期限中ト雖全地成功シタルトキハ本人ノ願ニ依リ拂下クルコトアルヘシ

第十二條 規則第六條一項前段ノ場合ニ於テ主タル事業ヲ成功セシテ之ニ附隨スル通路堤塘濠渠欄柵納屋厩等ノミヲ設置シタルモノアルトキハ其敷地ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

第十三條 規則第六條一項ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ七日以内ニ其受書ヲ地元戸長役場ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

第十四條 規則第六條一項ニヨリ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ施設ノ物件ヲ

取除キ其土地ヲ返納スヘシ

但返納地ニ係ル勞費アルモ當廳ハ之ヲ辨償セス

前項期限内ニ施設ノ物件ヲ取除カサルトキハ當廳ニ於テ之ヲ取除キ其費用ヲ返地人ヨリ辨償セシムルコトアルヘシ

第十五條 規則第六條一項ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ已ニ成功シタル耕宅地ハ第十一條ニ準シ拂下ヲ出願スヘシ

第十六條 規則第七條ニ依リ伐木代價ヲ徵收スルニハ起業方法書ニ記載シタル種類周尺樹數ニ照シ別ニ定ムル所ノ官林木特賣價額表ノ價額ニ依ル

第十七條 規則第八條ニ依リ返地ヲ命シタルトキハ命令書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ施設ノ物件ヲ取除キ費用調書ヲ差出シ其土地ヲ返納スヘシ

第十八條 規則第九條ニ依リ不得止事故アリテ貸下地ヲ讓渡サントスルトキハ第三條ニ準シ出願スヘシ但既ニ成功シタル部分ハ其成績ヲ詳記シ且成功未成功地ノ區別ヲ圖面ニ朱記スヘシ

第十九條 土地貸下ヲ出願中ノ者若クハ土地貸下ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ地元戸長役場部内ニ居住セサルトキハ其部内ノ居住者ヲ以テ代人ニ定メ地元戸長役場ニ届出ヘシ居住者不在ノトキ亦同シ

第二十條 規則第二條但書ニ依リ土地貸下ヲ願出ルトキハ第三條規定ノ外起業設計書ヲ添付スヘシ

但實測圖及財産調書ヲ徵スルコトアルヘシ

第二十一條 左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ其願書ヲ無効トス

一 第六條ノ規定ニ從ハサルモノ

二 土地貸下ヲ許可スルニ際シ本人若クハ代人ノ所在不詳ニシテ六十日ヲ過クルモ尙指令書ヲ下附スルニ由ナキトキ

三 土地拂下ヲ許可スルニ際シ本人若クハ代人ノ所在不詳ニシテ六十日ヲ過クルモ指令書ヲ下付スルノ途ナキ時ハ更ニ地元戸長役場ニ於テ三ヶ月間適宜公告ノ手續ヲナシ尙下付スルニ由ナキトキ

(明治二十七年十二月廳令第七十三號ヲ以テ追加)

四 土地貸下願ニ關スル調査ノ爲メ召喚スルニ際シ本人若クハ代人ノ所在不詳ナルトキ又ハ故ナク召喚ニ應セサル者(明治二十八年十月廳令第六十九號ヲ以テ追加)

第二十二條 左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ返地ノ處分ヲ結了シタルモノトス

一 第十三條ノ期限内ニ受書ヲ差出サハルモノ

二 本人若クハ代人所在不詳ニシテ六十日ヲ過クルモ尙返地命令書ヲ下附スルニ由ナキトキ

附則

第二十三條 従前ノ手續ニ依リ土地貸下期限中ノモノハ總テ此手續ノ規定ニ從フヘシ

第二十四條 本年三月三十一日以前ニ貸下ヲ出願シタル土地ハ本手續第一條ニ依ルノ限ニアラス

書式第一號 (用紙半紙)

土地貸下願

何國何郡何町(村)字何々番地

一 原野地何々 何坪 田(畑)(宅地)又ハノ見込

(他ニ土地貸下ノ許可ヲ得タルモノ又ハ土地貸下出願中ノ者ハ左ノ事項ヲ附記スヘシ)

外

何國何郡何町(村)字何々番地ニ於テ明治何年何月何日土地貸下許可ノ分

何 坪 田(畑)(宅地)又ハ

内

何 坪 明治何年何月迄成功

何 坪 未 成 功

何國何郡何町(村)字何々番地ニ於テ明治何年何月何日土地貸下出願中ノ分

何 坪 田(畑)(宅地)又ハ

又ハ土地貸下ノ許可ヲ得タルモノナシ(明治二十七年二月廳令第三號ヲ以テ追加)

右北海道土地拂下規則並全施行手續ヲ遵守シ別紙起業方法書之通リ無相違成功可致候間該地積御貸下相成度此段奉願候也

何府(縣)(北海道)何國何郡(區)何市(町)(村)字何々番地  
戸主(某何男)職業  
「當時何國何郡(區)何市(町)(村)字何々番地(某方)寄留」

明治何年何月何日

氏

名 印

北海道廳長官宛

前書之通出願ニ付進達候也

明治何年何月何日

區戸長

氏

名 印

書式第二號 (用紙半紙)

起業方法書

一 原野地何又ハ 何坪別紙圖面ノ個所

一 何國何郡何町(村)字何々番地

一 全地ニ目通何尺廻何木何本(樹木無之)

一 田(畑)(宅地)(海産乾場)(牧場)何又ハ見込

一 農(工)(商)(何漁)業若クハ何製造(牧畜)(養蠶)何又ハ經營並ニ其著手順序ノ詳細

一 明治何年ヨリ何年迄何年間御貸下同年限内ニ全地成功其每年事業ノ配當ハ左ノ如シ

初年(明治何年) 何坪田(畑)何又ハニ開墾

但普通農具何々又ハ西洋農具何々(馬何頭)ヲ用ヒ家族何人労働若クハ小作人何戸又ハ耕夫何人(此  
金何程)ヲ以テ田(畑)又ハ何々ニ墾成牛(馬)(羊)(豚)何何頭飼育(新ニ購入スルモノハ其種)小屋掛  
(居小屋)(牧舍)何又ハ何棟何坪造築(此費用金何程)  
道路延長幅何尺何間新開(同上)

二年目(明治何年) 何坪田(畑)何又ハニ開墾(何牧草播種)

但(初年ノ例ニ準シ詳記スヘシ)

牛(馬)(羊)(豚)何何頭飼育(新ニ購入ノモノト蕃殖ノモノトヲ區別シ)

排水延長幅何尺 深何尺何間新開(此費用金何程)

堤塘延長高何尺 數何尺 馬踏何尺何間新設(同上)

三年目(明治何年) 何坪田(畑)何又ハニ開墾

但(初年ノ例ニ準シ詳記スヘシ)

養蠶室(何製造場)何又ハ何棟何坪造築(此費用金何程)

牧柵延長何寸角又ハ丸太高何尺何間新設(同上)

四年目(明治何年) 以後各年ノ分ハ前例ニ準シ詳記スヘシ

一 風防(薪炭用)地等トシテ存置スヘキ木立地何坪樹木何々尺廻何本(立木無之ニ付何年目)(明治何年)

ニ於テ何木何本植付ノ見込

一 鮭鱒網建網引網差網何統何船何般明治何年何月迄ニ準備

但明治何年何月何日何漁業若クハ何海藻採收營業許可又ハ出願ニ付明治何年何月ヨリ漁業ニ著手ノ

見込

一 何年目(明治何年)ヨリ牛馬羊豚何種何頭何頭蕃殖毎年何々何頭販賣何々何頭宛飼育ノ見込

右之通相違無之候也

右願人

氏

名

印

明治何年何月何日

書式第三號

何國何郡何町(村)字番地

願人

氏

名

印

一 原野地何々ハ何坪

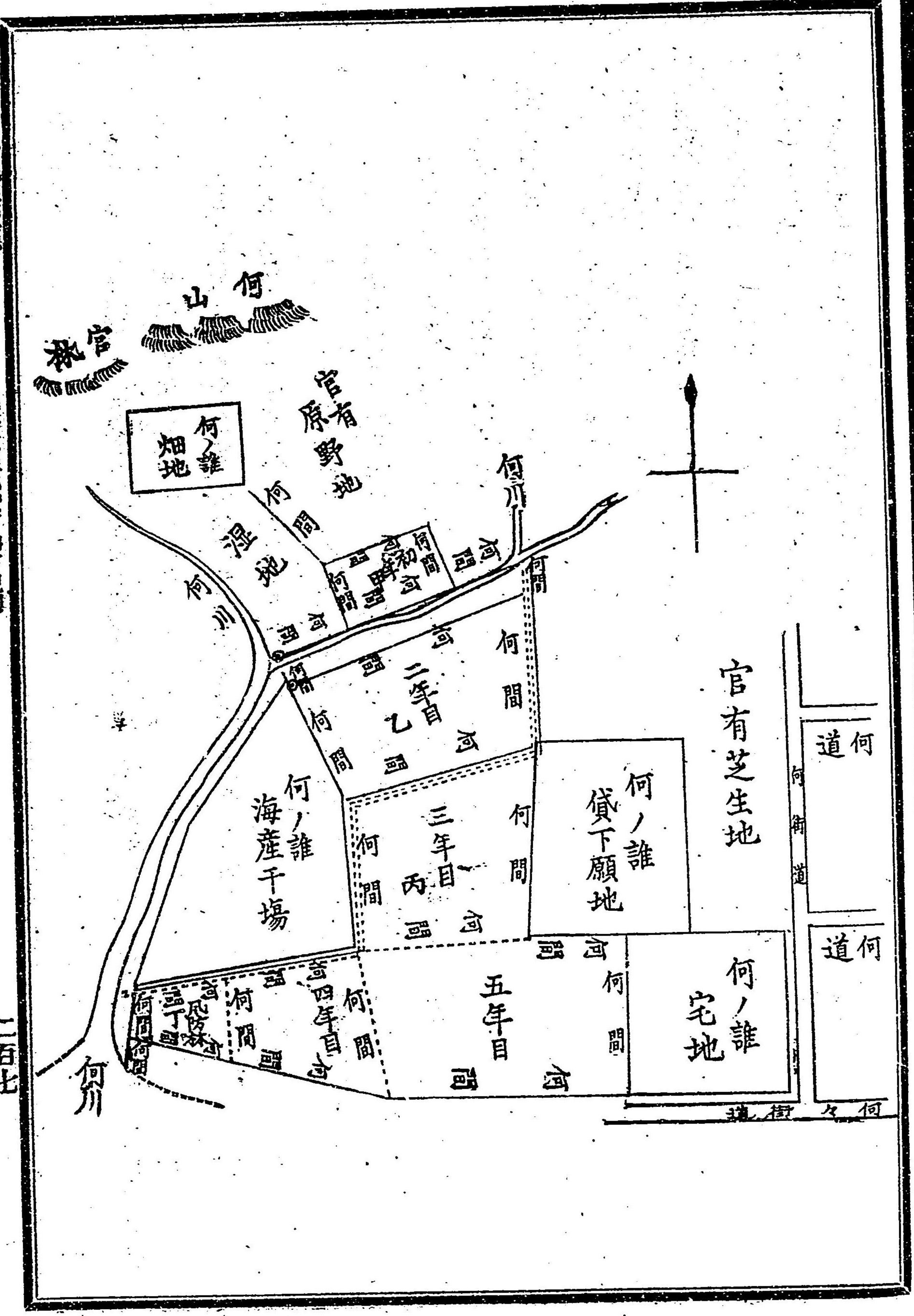
此譯

甲 何坪

乙 何坪

丙 何坪

丁 何坪



土地諸項

北海道土地貸下拂下規則

二百七

備考

基點 道路河川ノ辻若クハ近接貸下地等ノ隅角(若シ之レナキトキハ)ノ如キ移動ナキ個所ニ「㊦」印ヲ以テ基點ヲ明カニスヘシ

繫線 前項基點ノ例ニ依リ一筆毎ニ二個所以上ヲ實測シ朱點ヲ施シ其間數ヲ記入スヘシ

間數 地域ニ從ヒ周圍ニ間數ヲ明記スヘシ

區畫 數年ニ配當シ開墾スルモノハ其區域ニ朱線ヲ引クヘシ風防新炭用地區域モ亦全シ

除地 道路河川及溝渠ヲ挾ムトキハ各筆(例ハハ甲乙ノ如シ)ニスヘシ

敷地 新ニ道路及用惡水路ヲ設クルモノハ其個所ニ二條ノ朱點ヲ施スヘシ

右ノ外四至ノ景況ヲ詳記スヘシ

書式第四號 (用紙半紙)

事業成功程度御届

明治何年何月何日貸下許可

何國何郡何町(村)字何々番地

貸下總地積

一田(畑)(宅地)又ハ何坪 初年成功地積

外家屋(居小屋)又ハ何棟何坪造築済

(二年目以後ハ左ノ如ク内譯ヲ付シ其總計ヲ本項ニ記入スヘシ)

内

何坪 初年成功

又ハ

自初年至 成功  
何年目

外家屋(居小屋)又ハ何棟何坪造築済

何坪 何年目成功出ル年ノ前年  
中成功シタル分

外牧舎(何製造場)又ハ何棟何坪造築

右成功ノ實況御届仕候也

何府(縣)(北海道)何國何郡(區)何市(町)(村)字何々番地

戶主(某何男)職業

「當時何國何郡(區)何市(町)(村)字何々番地(某方)寄留」

明治何年何月何日

北海道廳長官宛

右届出候ニ付進達候也

明治何年何月何日

氏

名

㊦

氏

名

㊦



備考

道路河川ノ辻若クハ近接貸下地等ノ隅角(若シ之レナキトキハ)ノ如キ移動ナキ箇所二個所以上ニ繫線ヲ施シ實測間數ヲ記入スヘシ丈量ハ實地ニ於テ三斜ヲ施スヘシ

道路河川及溝渠ヲ挾ムトキハ分筆(例ハ甲)丈量スヘシ

風防薪炭用地ハ別筆ニスヘシ

新設道路及ヒ用悪水路敷地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ其墾成地積ニ算入スヘキノ以テ外

書ヲ要セス

一筆内ヲ分筆スルトキハ甲乙丙丁ノ符號ニヨリ相當番號ヲ付スヘシ

右ノ外四至ノ景況ヲ詳記スヘシ

第五 郡區長土地處分任條件

○北海道廳令第五十一號抄錄二十年五月二十七日二十七年十二月二十一日廳令第六十八號ヲ以テ追加二十八年二月五日二十八年二月五日廳令第三號及二十八年十二月二十一日廳令第五

十一號ヲ以テ更正

左ニ掲クル條件ハ特ニ郡區長ニ分任ス

九十三 官有未開地一人三萬坪以内ニ限り明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ處分

ノ事

但石狩國空知、樺戸、雨龍、上川四郡ニ屬スル處分並殖民區畫地ノ處分(拂下ヲ除ク)ハ此限ニア

ラス

第六 成功届及代人届ニ關スル告諭

○北海道廳告諭第一號二十七年三月二十三日

北海道土地拂下規則ニ依リ土地貸下ノ許可ヲ得タル者ハ明治二十六年三月北海道廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續第九條ニ依リ貸下期限中毎年事業ノ功程ヲ記載シ翌年一月三十一日限り地元戸長役場内ニ經テ當廳ニ届出サルヘカラス又土地貸下ノ許可ヲ得タル者及貸下出願中ノ者ニシテ地元戸長役場内ニ居住セサルトキハ同手續第十九條ニ依リ其部内ノ居住者ヲ以テ代人ヲ定メ地元戸長役場ヘ届出サルヘカラス然ルニ往々其届出ヲナササル者之アリ爲メニ第九條ノ場合ニアリテハ起業方法書ニ違ハス其年配當

地積ヲ成功シ了ル者アルモ之カ届出ナキヲ以テ檢査ノ後ニアラサレハ其成績ヲ知ルコト能ハス又第十九條ノ場合ニアリテハ出願地踏査ニ際シ代人ヲ以テ處辨シ得ルコトモ代人ノ届出ナキヲ以テ終ニ本人ヲ召喚セサルヲ得サルノミナラス代人ノ届出ヲナササルカ爲メニ同手續第二十一條ノ規定ニ依リテ土地貸下ノ出願書若クハ將ニ下付ゼントスル許可ノ指令書ヲ無効ニ歸セシムルノ已ムコトヲ得サル場合ヲ來シ官民ノ不便不利尠ナカラス候條該貸下出願者及貸下許可ヲ得タル者ハ今後一層此主意ヲ了得シ時々届出ヲ怠ラサル様篤ク注意スヘシ

第七 團體及單獨移住取扱手續

團結移民取扱ニ關シテハ從來幾多ノ變遷ヲ經タリト雖モ現行ノ法ハ二十五年末府縣知事ニ照會シタルヲ

以テ濫觴トス今逐次之レヲ左ニ記シ團結移住者ノ參照ニ便ナラシム

第一 團結移住者取扱ニ關スル件(二十五年十二月北海道廳長官ヨリ  
府縣知事ヘ照會第一二一四〇號寫)

當廳ニ於テ管内原野中開墾適當ノ地ヲ撰擇シ一萬五千坪宛ニ區畫割ヲ爲シ移住開墾ヲ爲サントスルモノ  
ノ便利ヲ圖ル目的ヲ以テ既ニ著手致シ現今成業ノ土地有之ニ付數十名團結移住ヲ爲スニ最モ便益不少而  
シテ誠實ナル團結移住ハ當廳ニ於テモ大ニ冀望致候得共是迄各府縣人民團結移住ノ目的ヲ以テ土地貸下  
出願ノモノモ多々有之候處往々其結果ノ宜シカラサルノミナラス中ニハ大地積ノ貸下ヲ受ケ其實ハ之ヲ  
香餌トシテ良民ヲ甘誘シ其間ニ於テ射利ノ姦計ヲ爲スノ徒モ有之哉ニ相聞ヘ彼是不都合ノ次第ニ付今後  
御管内人民ニ於テ申合セ當道ヘ團結移住ヲ爲サントスル者有之節ハ御廳ニ於テ該移住者ノ團結鞏固ニシ  
テ其計畫亦著實ナリト御認メ相成候分ハ便宜移住ニ關スル相互ノ規約ヲ結ハシメ之ニ認可ヲ與ヘラレン  
コトヲ冀望致候此團結移住ニ對シテハ當廳ニ於テ特別ノ取扱ヲ爲シ一層便宜ヲ與ヘ度目的ニ有之候條豫  
テ御了知置相成度依テ右ニ關スル取扱ノ要領等ヲ左ニ列記シ此段及御照會候也

團結移住ニ關スル要領

一 御管内人民數十戸團結シテ當道ヘ移住セントスルモノアルトキハ先其内一二名當道ヘ出張シテ實地ノ  
景況ヲ視察シ其他移住ニ關スル諸事ヲ承合スル方自他ノ便宜不尠ニ付可成右様御取計有之度候  
一 前項ノ出張員到著ノ上ハ當廳ニ於テ撰定區畫シタル土地ヲ指示シ尙移住ニ關スル要領ノ事項ヲ親シク  
示諭可致候

一 御廳ニ於テ團結移住ニ關スル事柄ニ付若シ分明ナラサル儀モ有之候ハ、其要領ヲ掲ケ御問合相成候ヘ  
ハ速ニ可及御回答候

一 團結移住者ノ目的方法等御廳ニ於テ是認セラレタル場合ニハ移住者ノ結合ヲ鞏固ナラシメンカ爲メ移  
住規約ヲ締盟セシムルハ有益ノ舉ト被存候ヘハ御廳ニ於テ調査セラレ之ニ認可ヲ與ヘラレンコトヲ希  
望致候

但御參考トシテ移住規約ノ要領書差進候間御取捨ノ上御取計有之度尤移住後ニ關スル事項モ有之儀  
ニ付御認可前一應當廳ヘ御回付アレハ意見アル所ハ御通報可致候

一 移住規約ノ認可ヲ受ケ其寫ヲ添ヘ貸下豫定地設置ノ儀出願スルトキハ當廳ニ於テハ確實ナル團結移住  
トシ移住者一戸ニ付一萬五千坪ヲ標準トシ總戸數ニ應シ特ニ貸下豫定地ヲ設ケ其旨指令可致而シテ移  
住スルニ際シ土地貸下ノ手續ハ明治十九年八月北海道廳甲第八號布達(明治二十六年三月北海道  
廳令第五號ヲ以テ改定)ニ依  
リ貸下願書ヲ作り移住前直ニ本人ヨリ差出候共又ハ移住者直ニ攜帶候共便宜ニ任セ候

但官廳ノ證明アル移住者ハ北海道炭礦鐵道會社ノ汽車ニ無賃乘車スルノ定メ有之旁移住者來道ノト  
キハ御廳ヨリ添書御渡相成度候

一 團結移住ノトキハ貸下停止中ノ區畫地ト雖特ニ其部分ヲ貸下豫定地ト爲ス儀モ可有之候

一 團結移住ハ戸數二十戸以上ニシテ一ヶ年十戸以上ツ、移住スヘキ計畫ニアラサレハ特別ニ貸下豫定地  
ヲ設ケサル等ニ付其旨豫メ御示諭相成度候



- 一 移住者到着ノ後ハ當應ニ於テ相當ノ獎勵ヲナスハ勿論ニ候得共移住前ニ在テハ御應ニ於テ規約ノ通移住ヲ實行スル様厚ク御獎勵アラシムコトヲ希望致候
- 一 團結移住若シ有力數名ノ組織ニシテ下作人ヲ募リ移住セシムル方法ナルトキハ其下作人モ移住ニ際シ規約締盟中ニ加ヘラル、様御取計有之度候
- 一 貸下地ハ毎戸ニ小區畫即一萬五千坪一個トシ其場所ヲ定ムト雖出願人ノ希望ニヨリテハ中區畫(九萬坪)ヲ以テ之ヲ貸與シ其區畫内ニ於テ右ノ割合ニ從ヒ各自便宜ニ配當方ヲ許スコトモ可有之候
- 一 貸下豫定地設置ノ出願ニ對シテハ左ノ目的ヲ以テ指令スヘキ筈ニ付豫メ御承知相成度候
- 一 貸下豫定地ノ存置年限ハ三年以内トス
- 一 移住戸數其年配當ノ戸數ヨリ不足スルトキハ其年限リ貸下豫定地ヲ解除ス

移住規約ノ要領

- 一 移住ノ目的
- 二 移住ノ戸數
- 三 毎年移住スヘキ戸數ノ配當
- 四 自作下作ノ區別
- 五 土地借受人ト下作人ト契約ニ係ル事項
- 六 勤儉貯蓄ニ係ル事項

- 七 習俗慣例ニ關スル事項
- 八 相互救護ニ關スル事項
- 九 移住旅費支辨ノ方法
- 十 移住後家作器具糧食等諸費支辨ノ方法
- 十一 移住總代ニ關スル規程
- 十二 規約違反者處分事項
- 十三 其他須要ノ事項

附組合結社等ノ方法ヲ以テ移住スルモノハ其社則又ハ之ニ要スル事項(前各項ノ外)ヲ可成明瞭ニ掲載セシ書類ノ添付アラシムコトヲ希望ス

第二 豫定地存置區分ニ關スル件(二十六年十月北海道廳長官ヨリ府縣知事ヘ照會第九四五七號寫)  
 客年十二月中第一二一四〇號ヲ以テ團結移住ニ關スル要領ノ儀ニ付及御照會候處右ノ内貸下豫定地ノ存置ヲ要スヘキ團結移住者ノ性質區分判明セサルヤノ嫌有之爲メニ無用ノ往復ヲ爲スノ恐有之ニ付自今左記ノ區分ニ依リ調査御取扱相成度且本年ニ於テ貸下豫定地ヲ存置シタル團結移住者中ニハ當初ノ目的ニ反シ其結果至リテ良好ナラサル者モ相見候條爾來貸下豫定地ヲ存置スヘキ性質ノ分有之トキハ十分精査審覈ノ上認可ヲ與ヘラル、様御取計相成度右通牒旁此段申進候也

貸下豫定地ヲ存置スヘキ團結移住者ト否ラサル者トノ區分

- 一 團結移住者ノ爲メ三ヶ年以内貸下豫定地ヲ存置スルハ自作ト小作トヲ問ハス府縣ヨリ移住希望者三十戸以上氏名確定ノ人員相團結シテ一年總戸數ノ三分一以上該豫定地内へ移住セントスル者ニ限ル
- 二 會社若クハ組合等ノ組織ヲ以テ人名不定ノ小作人ヲ募集スル者ノ如キハ其會社若クハ組合ニ貸下クヘキモノナルヲ以テ彼人名確定ノ團結移住ト異ナレリ依テ貸下豫定地ヲ存置スルノ限ニアラス
- 第三 會社組合等發起者ノ資産其他取調方法(明治二十六年十月第九四五八號ヲ以テ北海道廳長官ヨリ府縣知事ヘ依頼寫)
- 今回第九四五七號ヲ以テ申進候貸下豫定地ヲ存置スヘキモノト否ラサルモノトノ區分中第二項ニ該當スル會社若クハ組合等ノ事業ニ係ル發起人組合員ノ資産信用等ノ取調方法ニ付テハ未タ何等ノ御通牒モ不致候處明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第二條但書ニ依リ大地積ノ貸下ヲ出願セントスル者ハ本年三月當廳令第五號土地拂下規則施行手續ニ依ルノ外尙左記ノ調書ヲ要シ候條右ハ其目的果シテ確實ナリヤ否御意見ト共ニ御報道ニ預リ度此段及御依頼候也
- 一 移住費開墾費ノ總費額ニ對スル各自ノ負擔額ヲ其方法書ニ明記スルコト
- 二 發起人組合員ハ豫定ノ金額ヲ負擔シ又ハ資金ヲ募集シ得ヘキ見込アリヤ  
但各自ノ資産調査書ヲ添付セラル、ヲ得ハ好都合ニ有之候
- 三 發起人各自ノ經歷信用果シテ其企業ニ適スルヤ
- 第四 氏名確定團結移民ノ戸籍寫回付ノ件(明治二十七年二月北海道廳長官ヨリ府縣知事ヘ依頼寫)
- 氏名確定ノ團結移住者中間々一家數名ノ者ヲ以テ數戸ト記シ戸數ノ多キヲ示シ候者有之右調査ノ爲メ往復ヲ爲ス場合モ有之候處斯テハ移住者ノ不利益ト被存候ニ付自今規約書ト共ニ市町村長ノ證明アル各戸戸籍寫ノ回致ヲ得候様致度此段及御照會候也

第五 團結移住者取扱方ニ關スル件(明治二十八年二月北海道廳長官ヨリ府縣知事ヘ依頼寫)  
 團結移住者取扱方ノ儀ニ付テハ去二十五年十二月二十二日當廳内務部第一二一四〇號及二十六年十月二日令第九四五七號ヲ以テ及御照會置候處今般團結移住ニ關スル要領別紙ノ通改正致候ニ付爾今右ニ準シ御取扱相成度且最早移住ノ期節差迫候儀ニ付此際御管下一般へ周知セシメラレ候様致度此段及御照會候也

追テ會社組合若クハ一人ニシテ三十戸以上ノ小作人ヲ募集シ貸下ノ年ニ於テ全部移住セシメントスル確實ナル起業者ニ對シテハ貸下停止中ノ個所ト雖一ヶ年以内貸下地ヲ豫定存置スル場合モ可有之又會社ノ名義ヲ以テ土地貸下ヲ出願セントスル者ハ從來ノ通り定款等添付セシムル儀ト御了知相成度右申添候也

- 團結移住ニ關スル要領
- 一 各自土地拂下ノ目的ヲ以テ三十戸以上氏名確定ノ人員相團結シテ初二年ニ毎年總戸數ノ三分一以上宛三年目ニ殘戸數移住セントスル者ハ團結移住者トシテ取扱フモノトス
  - 二 團結移住者ハ移住規約ヲ締盟シ府縣廳ノ認可ヲ經ルヲ要ス  
 府縣廳ニ於テハ認可以前市町村長ノ證明アル各自ノ戸籍寫ヲ徵シ移住規約書ト共ニ北海道廳ニ回付

シ意見ノ問合セアルヘキモノトス但戸籍寫ハ調査終了ノ後府縣廳ヨリ移住總代人若クハ本人へ返付スルモノトス

三 移住規約書ニ掲記スヘキ概目左ノ如シ

一 移住ノ目的

二 移住ノ戸數

三 毎年移住スヘキ戸數ノ配當

四 勤儉貯蓄ニ係ル事項

五 習俗慣例ニ關スル事項

六 相互救護ニ關スル事項

七 移住旅費支辨ノ方法

八 移住後家作器具糧食等諸費支辨ノ方法

九 移住總代人ニ關スル規程

十 規約違反者處分ニ關スル事項

其他須要ノ事項

四 移住規約ノ認可證ヲ添付シ貸下豫定地存置願ヲ提出シタルトキハ區畫地ナルト否ヲサルトヲ問ハス移住者一戸ニ付一萬五千坪ヲ標準トシ總戸數ニ對スル貸下豫定地ヲ存置スヘシ但土地ノ都合ニ依リ

一時ニ總戸數ニ對スル豫定地ヲ存置セサルコトアルヘシ且豫定年限ヲ短縮スルコトアルヘシ

五 貸下停止中ノ土地ト雖貸下豫定地トシテ存置スルコトアルヘシ

六 團結移住者貸下豫定地内ニ移著シタルトキハ明治二十六年北海道廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續ニ依リ各自其區域ヲ指定シ土地貸下願ヲ提出スルヲ要ス

第六 移住者取扱方ニ關スル件(明治二十六年三月府縣知事へ照會)

明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則施行手續令般別冊ノ通改定本年四月一日ヨリ施行致候右ハ從前ノ手續トハ大ニ其趣ヲ異ニスルノ條項モ有之最近當道ニ移住ヲ希望シ陸續土地貸下ヲ出願スル者増加シ來候折柄ニ候得者該希望者ニ於テ豫メ手續ノ改正ヲ周知致居ラス候テハ出願ノ手續ヲ誤リ爲メニ時機ヲ失スル等ノ不便モ可有之且從前貸下出願中未タ實地ノ調査ヲ受ケサルモノハ別紙告示第二十一號ニ依リ本年七月三十一日限地圖及戸籍寫ヲ要スル儀ニ有之然ルニ該出願中各府縣ニ本籍ヲ有シ目下當道内ニ居住セサルモノ、如キハ本改正ヲ知悉セサルカ爲メニ其希望ヲ達セサル等ニ立至候テハ本人ノ不幸ト被相考其他當道ニ於テ起業ノ目的ヲ有スル者ノ參考トモ可相成候得ハ右改定手續及告示等此際御管下一般へ周知セシメラレ候様御取計相成度

却說從來府縣ヨリ來住ノ移民ト稱スル者ノ狀況ヲ觀察スルニ概テ開墾事業ヲ以テ一家ヲ經營スルノ目的方法確立セス漫然空望ヲ懷テ渡來スル者多キカ故ニ他日ノ實況豫想ト大ニ異ナル所アルヲ發見スルモ如何トモ爲シ難ク僅ニ勞役ヲ以テ糊口スルカ如キ悲惨ノ境遇ニ陥リ甚シキハ百計盡キテ歸國シタル實例モ

不少就而ハ今後御管下人民ニシテ開墾農牧ヲ企圖シ當道ニ移住セント欲スル者ハ豫メ貴廳ニ申出テ貴廳ニ於テハ本人ノ性行業務ヨリ事業ノ目的移住地ノ所在貸下出願スヘキ地積資産ノ有無多少勞力ニ耐ユルヤ否等ニ至ルマテ篤ト調査ヲ遂ケラレ其誠實ト認定セラレタル者ニ限リ前以テ其要領ヲ當廳ヘ移牒シ當廳ノ回答ヲ得テ本人ニ決心セシメラレ候ハ、本人ハ敢テ無用ノ勞費ヲ投セスシテ速ニ其希望ヲ達シ得ヘク當廳ニ於テモ土地貸下ニ關シ取扱上極メテ好都合ニ付其邊モ御考案ノ上御管内ヘ可然示達ヲ煩シ候様致度切望ノ至リニ耐ヘス然ルトキハ少數ノ移住者亦其渡來ノ順序相定マリ客臘御照會致候團結移住ノ法ト並ヒ行ハレ自他ノ利益鮮少ナラスト存候此段御依頼旁及御照會候也

第七 移住者ニ關スル注意ノ件(明治二十七年三月 府縣知事ヘ照會)

本道團結移住民ノ儀ニ關シテハ從來數々及御照會置候處近時移民日ニ相加リ機運ヲ奇貨トシ各地方ヲ徘徊シ小民ヲ甘誘シテ徒手匆卒渡航ノ途ニ上ラシメ渡航ノ後ハ前後モ辨セサル客土ニ放棄シテ著業ノ案内ヲ爲サス移民ヲシテ空ク彷徨セシメ以テ窃ニ不正ノ財利ヲ其間ニ企テ候者有之趣ニテ現ニ其實例モ不尠渡航者ノ不幸ハ申迄モナク延テ本道拓殖ノ進路ヲ妨害候段遺憾千萬ノ儀ニ候就テハ御手數ニハ候得共今後貴管下ニ於テ右等奸徒徘徊候様ノコトモ有之候ハ、嚴重御示達ノ上相當御取締相成様致度此段御照會旁特ニ及御依頼置候也

### 第八章 移住諸項

第一 北海道移住費概算(一戸四名大人二名 老幼二名一ケ年)二十六年十二月調査

- 家屋 拾八圓參拾貳錢
- 家具 八圓六拾貳錢
- 食料 五拾參圓六拾五錢五厘
- 農具 貳拾貳圓五拾壹錢
- 合金百參圓拾錢五厘
- 備考 別記ヲ參照スヘシ

家屋 (假小屋)

品目	數量	價格	單價
屋 萱	三 千	六 圓	一 千 把 貳 圓
中 間 繩	四	壹 圓 貳 拾 錢	參 拾 錢
六 分 板	六	貳 圓 貳 拾 貳 錢	參 拾 七 錢
七 島 吳 座	十	壹 圓 四 拾 錢	拾 四 錢
井 戶	一	七 圓 五 拾 錢	七 圓 五 拾 錢

移住諸項

北海道移住費概算

合金八圓參拾貳錢

備考 本表ハ五間ニ三間ノ掘建一棟合十五坪及便所共草葺トシテ豫算セリ但春季葺等ヲ刈取ル能ハサル場合ニハ葺葺トスルノ外ナシ葺葺ナレハ一坪金參拾錢内外ヲ要ス此場合ニ於テハ秋季ニ至リ葺替ヲ爲シ以テ風雪ノ侵入ヲ防カサルヘカラス

家具

品目	數量	價格	單價
鍋	一	壹圓	六拾
庖丁	二	參拾錢	四拾
茶碗	五	貳拾五錢	五拾
椀	五	貳拾五錢	五拾
皿	五	參拾錢	五拾
手杓	二	參拾錢	五拾
柄杓	二	貳拾錢	五拾
小桶	三	拾八錢	六拾
蕙	十	七拾錢	七拾

品目	數量	價格	單價
空	一	四拾錢	五拾
鐵	一	五拾錢	五拾
燈	一	參拾錢	拾
箕	二	貳拾錢	參
馬	一	拾錢	參
蚊	一	貳圓	拾
其他	凡	壹圓	貳拾

合金八圓六拾貳錢

備考 本表中厨家具ノ如キハ成ルヘク携帯スルヲ可トス但シ陶器桶等ノ如キ破損シ易キモノ若クハ荷嵩ノ大ナルモノハ携帯セサルヲ可トスト雖モ日常必需品タルヲ以テ掲記セシノミ夜具衣類ハ移住者ノ携帯スルモノトシテ茲ニ算入セス但シ特ニ蚊帳ヲ掲ケシハ當道原野ニハ「ヌカカ」ト稱スル一種微小ノ蚊アリテ寒冷紗ノ如キ緻密ナル蚊帳ヲ用意スルノ必要アルニ由ル

食料 (一ヶ年三百六十五日)

品目	勞働男女二人	非勞働老幼二人	小計
並			
支			
米	拾五圓參拾參錢	七圓六拾六錢五厘	貳拾貳圓九拾九錢五厘

移住諸項

北海道移住費概算

二百二十六

大鹽

麥	拾參圓拾四錢	六圓五拾七錢	拾九圓七拾壹錢
菜料	七圓參拾錢	參圓六拾五錢	拾圓九拾五錢

合金五拾參圓六拾五錢五厘

備考 勞働男女一人一日ノ食料玄米三合大麥三合鹽菜料壹錢非勞働老幼一人一日ノ食料玄米一合

五勺大麥一合五勺鹽菜料五厘トシ計算ス但シ玄米一石七圓大麥一石六圓搗精セサルモノ一

セハ凡半減トナルヲ以テ代ノ時價ヲ標準トス

秋季九十兩月ノ交ヲ期シテ移住シ直チニ小屋掛ニ著手シ雪中ハ伐木其他開墾ノ準備ニ從事

シ翌春消雪ヲ待テ少クモ一町五段歩以上ヲ墾成シ之レヨリ生スル收穫ヲ以テ次年ノ食料ニ

充ツヘシ故ニ初一周年間ハ全ク支出ノミニ止マリ收入ナキモノトシテ豫算セリ又春季消雪

ノ候即チ三四月ノ交ニ移住シテ直チニ開墾ニ從事シ少ナクモ一町歩以上ヲ墾了セハ凡六ヶ

月ノ後ニ於テ收入スル所ノ雜穀ヲ食シ得ルヲ以テ食費ニ於テ大約半減スルノ利益アリ

農具

品目	數量	價格	單價
平 鍬	二	參圓貳拾錢	壹圓六拾錢
唐 鍬	二	壹圓五拾錢	七拾五錢

品目	數量	價格	單價
鎌	二	壹圓五拾錢	七拾五錢
ホ	二	壹圓貳拾貳錢	六拾壹錢
山	一	參拾五錢	參拾五錢
鋸	一	貳圓參拾五錢	八圓拾五拾錢
目	一	拾貳錢	拾貳錢
鑿	二	拾貳錢	六錢
砥	一	參拾錢	拾拾五錢
鎌	一	五錢	五錢
箕	二	四拾錢	貳拾錢
擔	一	六拾錢	六拾錢
蕙	三	壹圓九拾五錢	六錢五厘
鑪	一	六拾錢	六拾錢
鹿	二	貳拾六錢	拾參錢

移住諸項

北海道移住費概算

二百二十七

移住諸項

北海道移住費概算

二百二十八

フ * ク	一	挺	六拾壹錢	六拾壹錢
ポテト、ト、フ、* ク	一	挺	九拾錢	九拾錢
竹製篩	二	個	貳拾八錢	拾四錢
小米篩 (杵ハ自製)	一	個	五拾錢	五拾錢
白米篩	一	個	壹圓	壹圓
碓	一	個	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
小細工道具	取	合		

合金貳拾貳圓五拾壹錢

備考 本表ノ外馬耕ヲ爲スニ於テハ耕馬(一頭參拾圓)、「プロラオ」(貳拾圓乃至貳拾五圓)、「ハロー」  
(五圓乃至九圓)、右付屬品(五圓五拾錢)、荷車(八圓五拾錢)合金六拾九圓ヲ要ス

參考

旅費ハ原籍地ト移住地トノ遠近並ニ交通ノ便否ニ依リテ大ニ異ナルカ故ニ茲ニ路順ト賃錢ノ  
概畧ヲ掲ケ各自計算ノ便ニ供ス

旅費計算ノ基礎

函館其他各港灣間汽船賃錢表

至自函館	海里	客下等賃錢	百斤量重	一才(積容)	一石	至自函館	海里	客下等賃錢	百斤量重	一才(積容)	一石
小樽	二二八	二〇〇	低高	二七錢	三三錢	神戶	八七	五五〇	低高	七二錢	二二八
室蘭	七九	一五〇	同同	二九錢	三三錢	土崎	一四四	三〇〇	同同	七四錢	二二八
釧路	二二〇	二〇〇	同同	二七錢	三三錢	酒田	一八七	三三〇	同同	七四錢	二二八
厚岸	二二〇	一五〇	同同	二九錢	三三錢	新潟	二四七	四〇〇	同同	七四錢	二二八
濱中	二四四	二五〇	同同	二九錢	三三錢	伏木	三三七	四〇〇	同同	七四錢	二二八
根室	二八九	三〇〇	同同	二九錢	三三錢	敦賀	三三七	四〇〇	同同	七四錢	二二八
青森	六〇	三〇〇	同同	二七錢	三三錢	境	四三九	七〇〇	同同	七四錢	二二八
荻ノ濱	二六六	四〇〇	同同	二七錢	三三錢	下ノ關	五二九	八五〇	同同	七四錢	二二八
橫濱	五二六	五〇	同同	二七錢	三三錢	尾ノ道	九八四	六五〇	同同	七四錢	二二八
四日市	七二九	四〇〇	同同	二七錢	三三錢	長崎	一二五八	九五〇	同同	七四錢	二二八

備考 本表ハ日本郵船會社汽船ノ交通スル所ナリ

移住諸項

北海道移住費概算

二百二十九

移住諸項

北海道近海各地埋數

### 第二 北海道近海各地埋數

室蘭	函館	青森	小樽	68	75	146	177	218
109	60	森積	内	岩	18	97	128	169
	526	濱	都	壽		84	115	156
			差	江			40	81
			山	福				42
			函館					
			小樽	久遠				
			16	小樽				
			119					
			小樽	余市				
			18	神				
			56	内				
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					
			31					
			福島					
			33					
			函館					





第四 船舶積荷運賃

本表ハ日本郵船會社海船積荷運賃表ニ依リ調製セリ該會社外ノ海船ハ稍々差異アルモノナリ貨物ハ四捨五入ノ法ヲ以テシ才員ハ分位斤量ハ斤位實目ハ分位石取モノハ分位噸取...

其一 貨物等級

Table with 2 columns: 一等 (First Class) and 二等 (Second Class). Items listed include 製藍 (Dye), 珊瑚 (Coral), 遺骨 (Remains), 眞生 (Genuine), 綿糸 (Cotton Yarn), 金銀金物 (Gold/Silver Goods), 水絹 (Silk), 藥糸 (Medicine Yarn), 金時 (Gold), 銀箱 (Silver Box), 漆袋 (Lacquer Bag), 甲物 (Iron Goods).

Main table with 3 columns: 品 (Goods), 等 (Class), 品 (Goods). Lists various categories like 煙管 (Smoking Pipes), 酸類 (Acids), 劇藥 (Theatrical Medicines), 毛皮 (Fur), 洋傘 (Umbrellas), 木竹 (Wood/Bamboo), 團荒 (Clay), 扇物 (Fans), 枕石 (Pillows/Stone).

移住諸項 船舶積荷運賃

二百三十五











### 第六 北海道炭礦鐵道株式會社貨物運賃其他

本鐵道貨物運搬ニ關スル定メハ下ノ如シニ、奇零量目ハ五十斤ヲ以テ單位トシ五十斤未滿ト雖モ五十斤ノ貨錢ヲ徵スニ、奇零哩ハ十里ヲ單位トシ十里未滿ト雖モ十里ノ貨錢ヲ徵スニ、荷物受渡時間ハ午前七時ヨリ午後六時トス、四紛失並毀損物等ニ付會社ニ申出ヘキ苦情アルモ、ハ到着停車場ハ貨物著後二十四時間ノ内貨物受取ノ前ニ於テナサレハ無効トス、五、貨物ノ運滞貨ハ貨物著後二十四時ヲ過キタルトキハ一日毎ニ(一日未滿ノ時間)普通諸貨物百斤ニ付金參錢、礦物其他約定貨物ハ一輛ニ付金參圓五拾錢ノ預貨ヲ徵スニ、荷物積荷運滞モ同様一輛六、特約貨物運送ハ米、酒、漬物、味噌、醬油、西洋酒ヲ除キ一種ノ物品ニシテ多量運送ヲナスカ又ハ遠距離ノ運送ヲナスモノハ貨主ト特約シテ運賃ヲ低下輸送スルコトアリ、七、生獸類ハ馬一匹一哩毎ニ金拾錢、最低貨金貳圓、牛一頭一哩金參錢、最低哩及貨金二十五哩七拾五錢、犢羊、山羊、豚一頭一哩金壹錢、最低貨金貳拾五錢トス、八、鷄卵紙ハ十斤ニ付一哩金壹錢、參厘、最低貨金貳拾六錢トス、九、危險物中、硫酸ノ如キハ二噸以上四級貨金二噸以下五級貨金、石腦油ハ二噸以上二噸以下三噸以上ハ三級貨金、摺付木ハ一噸以上三級一噸以下ハ四級貨金、火藥ハ百斤ニ付金壹錢、貳厘、最低貨金參拾錢トス、十、貴金屬、通貨紙幣、切手類、證書類、繪圖其他書付類ハ貨物列車便ニテハ運送セズ、十一、運賃ハ錢位ニ止メ、壹錢未滿ハ壹錢ニ切上クヘシ、十二、停車場外貨物ノ積卸ハ貨主引受クルカ又ハ其費ヲ辨スヘシ、十三、貨車ハ七噸積ニシテ容積七百才以下トス、十四、保險料ハ左ノ如シ

- 第一級 第二級貨物
  - 二十五哩未滿 金額百圓ニ付
  - 二十五哩以上五十哩未滿 同
- 第一級 第二級貨物
  - 金額百圓ニ付
  - 金五錢
  - 金拾錢

- 五十哩以上 同 金拾五錢
- 最低金額 同 金貳拾五錢
- 第四級 第五級並級外貨物
  - 二十五哩未滿 金額百圓ニ付
  - 二十五哩以上五十哩未滿 同
  - 五十哩以上 同 金拾錢
  - 最低金額 同 金貳拾錢

- 十五、貸切車ハ第一級、第二級、第三級貨物中、米、酒、漬物、味噌、醬油、西洋酒ヲ除キ其貨金左ノ如シ
  - 一 七噸積函車一輛ニ付 一哩毎ニ 金五拾錢
  - 一 同上登車 同 金四拾貳錢

七噸車一輛一哩	一級品	二級品	三級品
一車一品積	金貳拾壹錢	金參拾參錢	金四拾貳錢

十六、各種貨物運賃區別ハ下ノ如シ(農産物ハ明治二十八年一月一日ヨリ) 此定額四分一ニテ運搬ス

百斤ニ付	一級品	二級品	三級品	四級品	五級品	礦屬
一哩 貨金	金貳圓五毛	金四厘	金五厘	金六厘	金七厘	一噸金貳錢五厘
二十五哩以內	金五錢	金七錢	金拾錢	金拾貳錢	金拾五錢	
二十五哩以上最低貨金	金拾錢	金拾四錢	金貳拾錢	金貳拾四錢	金參拾錢	
五十哩以上最低貨金	金拾五錢	金貳拾壹錢	金參拾錢	金參拾六錢	金四拾五錢	最低金參圓五拾錢



其一 小荷物其他貨錢

程	無賃制限外手	小荷物	貴重品	犬	新聞雜誌	死體
	普通小荷物	紙細工、漆器、並地金銀、寶並他家禽其他鳥類、但籠又ハ網ニ入レタルモノニ限ル	貴重品、金銀子、象牙、珠、其他小禽、	頭	新聞雜誌	一人ニ付
貨物一斤ニ付	一斤ニ付	易ク嵩高ノモノ紙幣	貨金皆掛ケ	一斤ニ付	一斤ニ付	一人ニ付
二十五哩迄	金五錢	金壹錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金五圓	金
五十哩迄	金七圓五毛	金壹錢五厘	金參錢	金參錢	金七圓五毛	哩
百哩迄	金壹錢	金貳錢	金四錢	金四錢	金壹錢	二
百哩以上五十哩若クハ五十哩未満每二	金貳圓五毛	金五厘	金壹錢	金貳拾錢	金參圓五毛	付
最低貨金	金五錢	金五錢	金拾錢	金拾錢	金五圓	圓

其二 貨物等級 (著キモノヲ掲ク)

一級品	不精硫黃、錳、錳綱、浮石、金剛石、石灰、芋、裸麥、木灰、帆布、骨及骨屬、骨灰、反古紙、林檎、糠、大麥、藁繩、草鞋、乾蕨、山葵生、燕麥、南瓜、蠶糞、大砲玉、種子物、陶土、玉蜀黍、蕎麥、同上粉、棧、菜種、蕙、鮮牛乳、和製農具(組立サルモノ)、菓物(乾漬)、釘、豆類、同上粉、下駄、粟、澱粉、材木、並砂糖、草履、鹽、銃床、
二級品	棕枳糸、木綿生糸、麻苧、麻屑、鹽鱈、丸砥石、磨石、井戸繩、井戸車、甘藷、帚(和製)、植木鉢、張板、樽入麥酒、梯子、白墨、濁酒、蒜、菲、襪襪、木履、生綿、乾鯪鮓、枯草、乾柿、日

級品	本紙、新聞紙用洋紙、大砲、麻種子、乾大根、落花生、和蠟燭、鹽又ハ乾魚、和葛、釘、下駄、消炭、麥粉、水塊(一噸以上)、米、粃、干飽、亞麻、麻糸、苗木、電信用器械、杉皮、木材(桐、桑、黑柿)、蜜柑、味噌、水(樽入)、牛馬羊皮(乾)、雪駄、木炭、西瓜、
三級品	毛絲、古着類、造管用加工石、挽臼、井戸杵、絲瓜、石燈籠、爐、旋盤細工物、黃銅、針、巴旦杏、米粉、麥酒、麪包、同上粉、鮮肉、帆、ペンキ、軍用旅具、林檎酒、車軸、木綿及麻縫絲、車ノ輪、和筆、草、蛇、鯉節、金函、鎌、蠟、寒天草、支那紙、大工道具、竹、建具類、鐵板煖爐、疊、樽入漬物、桑葉、和產生菓、藍靛、銅器、葉藍、酒(樽入)、舶來農具、鹽牛肉樽入、味醂樽入、礦水、白絞油、尺、艾、扇、酢(樽入)、錫、
四級品	衣類、煎海鼠、新製衣服、石版石、墓碑、印肉、蜂蜜、牛酪、同上製造器、馬具、庖丁、藥用人參、干肉、死鳥及死動物類、乾酪、同上製造器、檀古半、提灯、旅具、柑塙、木綿並絹交織物、同上器械、白粉、洋布、洋燈火舍、西洋紙、卵、茸類、短銃、漬物、羅紗、活字、菓物砂糖漬、靴、毛織物、顏料、鮮魚卵、毛布、鹿皮、書籍、
五級品	木製椅子、籠入活花、造花、白銅貨、薰物、彫刻物、鼈甲、屏風、時計、生鳥類、藁細工物、鏡、玻璃板、香、樂器、寒天、蠶卵紙(卵ヲ附ケタルモノハ級外)、角細工物、洋燈、生魚、真綿、卷蓑、銅貨、生絲、絹物、絹絲、自轉車(一人乘)、

移住諸項

礦 屬

硫黃塊、板石、建築石、敷石、邊石、硫酸石灰塊、石灰並石灰石、白堊、麥、植木類、砂石、砂、土、鹽(並品包タルモノ)、石灰、



第七 北海道各地陸路里程

札幌—宗谷—根室間		札幌—宗谷—根室間		札幌—宗谷—根室間		札幌—宗谷—根室間	
驛名	里數	自札幌	自根室	宗谷	札幌	自根室	宗谷
札幌	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺	六〇〇〇〇〇	八二〇六二八二	一一一三三三四	
篠路	三〇〇一〇	三〇〇一〇	一九〇九三	一三〇〇〇〇	九四三六二八二	六九〇三三四	
石狩	三三三三〇	六三三四六	一八六三五六	一一九五〇	一一八二五四五	七五〇三五七	
厚田	五〇〇〇〇	一一〇七四六	一八一二五六	六〇五〇〇	一三七二四〇〇	五六一五四一	
濱益	七三三〇〇	二〇〇五四六	一七三三五六	五〇〇〇〇	一四二一六〇〇	五二一三四一	
増毛	九三三〇〇	二九二八四六	一六三三五六	五二八〇六	一四七三三四〇	四三三三三五〇	
留萌	四〇三〇六	三三三三三	一五九三三〇	六〇五〇〇	一五四〇〇七	三九二六三五〇	
鬼鹿	六〇〇二六	三九三三三	一五三三三	九三三三〇	一六三三六四	三〇一三〇一〇	
苫前	五〇〇〇〇	四三三三三	一四八三三	七二六〇〇	一七〇三三三	三三三三四七〇	
風連	八〇〇〇〇	五三三三三	一四〇三三	七二七〇〇	一七八三三五	一五二五四七〇	
天鹽	八〇三〇〇	六〇三三三	一三三三三	四〇〇〇〇	一八二三五五	一一一五四七〇	
稚内	一五二七〇〇	七六三三三	一一七三三	四〇〇〇〇	一八六二四二	七二五四〇〇	
宗谷				六〇〇〇〇〇	八二〇六二八二	一一一三三三四	
猿拂				一一〇〇〇〇	九四三六二八二	六九〇三三四	
枝幸				一三〇〇〇〇	一〇八〇六一八	八五三三三四	
幌內				一〇九五〇	一一八二五四五	七五〇三五七	
紋別				一一九五〇	一三三〇八五一〇	六二二〇五一	
湧別				六〇五〇〇	一三七二四〇〇	五六一五四一	
常呂				五二八〇六	一四七三三四〇	四三三三三五〇	
網走				六〇五〇〇	一五四〇〇七	三九二六三五〇	
斜里				九三三三〇	一六三三六四	三〇一三〇一〇	
瑠邊				七二六〇〇	一七〇三三三	三三三三四七〇	
標津				七二七〇〇	一七八三三五	一五二五四七〇	
春別				四〇〇〇〇	一八二三五五	一一一五四七〇	
別海				四〇〇〇〇	一八六二四二	七二五四〇〇	

移住諸項

北海道各地陸路里程

驛名	里數	苦小牧—根室間		自根室	自函館	自網走
		自苦小牧	自根室			
遠太	三〇〇〇〇〇	一八六、一四四、二〇〇	四〇五、〇〇〇			
根室	四〇五、〇〇〇	一九三、二九四、二〇〇				
苦小牧	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺
勇拂	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二七三、三三四、五	二七三、三三四、五	二七三、三三四、五	二七三、三三四、五
鷓川	四一八、〇〇〇	七、一八〇、〇〇〇	二四四、三三三、二四五	二四四、三三三、二四五	二四四、三三三、二四五	二四四、三三三、二四五
沙瑠太	三、二二一、六〇〇	一〇、三〇一、六〇〇	一九三、二〇五	一九三、二〇五	一九三、二〇五	一九三、二〇五
賀張	四〇〇、四〇〇	一四、三三四、六六五	一、二一八、五八五	一、二一八、五八五	一、二一八、五八五	一、二一八、五八五
下々方	四二七、三〇〇	一九二、六六五	一〇七、二三四、八〇〇	一〇七、二三四、八〇〇	一〇七、二三四、八〇〇	一〇七、二三四、八〇〇
姨布	五、一〇一、八四四	二五五、〇〇〇	一〇一、一三三、一九三	一〇一、一三三、一九三	一〇一、一三三、一九三	一〇一、一三三、一九三
浦河	五、一五五、〇〇〇	三〇一、六四四、五五五	九六、三三三、九九〇	九六、三三三、九九〇	九六、三三三、九九〇	九六、三三三、九九〇
樣似	三、六五五、〇〇〇	三三三、三三四、四一〇	九三、一五三、三三五	九三、一五三、三三五	九三、一五三、三三五	九三、一五三、三三五
幌泉	六、三三四、四四一	四〇〇、三三三、三三三	八六、一六六、九九四	八六、一六六、九九四	八六、一六六、九九四	八六、一六六、九九四
猿留	八、二四四、〇〇〇	四九〇、〇〇〇	七八、二〇九、〇〇〇	七八、二〇九、〇〇〇	七八、二〇九、〇〇〇	七八、二〇九、〇〇〇
廣尾	五、三三三、四〇〇	五、三三三、四〇〇	五、三三三、四〇〇	五、三三三、四〇〇	五、三三三、四〇〇	五、三三三、四〇〇
歷舟	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
勇洞	四、一〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇
大津	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
昆布刈石	四、二四四、〇〇〇	四、二四四、〇〇〇	四、二四四、〇〇〇	四、二四四、〇〇〇	四、二四四、〇〇〇	四、二四四、〇〇〇
尺別	三、三三三、一〇〇	三、三三三、一〇〇	三、三三三、一〇〇	三、三三三、一〇〇	三、三三三、一〇〇	三、三三三、一〇〇
白糠	四、一五〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇
釧路	三、三三三、二〇〇	三、三三三、二〇〇	三、三三三、二〇〇	三、三三三、二〇〇	三、三三三、二〇〇	三、三三三、二〇〇
厚岸	三、二二六、〇〇〇	三、二二六、〇〇〇	三、二二六、〇〇〇	三、二二六、〇〇〇	三、二二六、〇〇〇	三、二二六、〇〇〇
瑠璃瀾	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇
濱中	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇	五、一六六、二二〇
初田牛	六、〇〇〇、三三三	六、〇〇〇、三三三	六、〇〇〇、三三三	六、〇〇〇、三三三	六、〇〇〇、三三三	六、〇〇〇、三三三
落石	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
根室	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇

札幌—江差—福山—函館間

驛名	里數	札幌—永山—網走間		自網走
		自札幌	自永山	
江差	三〇〇、五五〇	八六、二五五、二二四	四、二二二、二二四	四、二二二、二二四
石崎	六二二、四四〇	九八、三三三、三三三	三、〇〇〇、三三三	三、〇〇〇、三三三
江良町	五二九、四一〇	九八、三三三、三三三	三、〇〇〇、三三三	三、〇〇〇、三三三
福山	五〇一、〇八〇	一〇三、三三三、三三三	二、五〇〇、三三三	二、五〇〇、三三三
福島	五〇二、四〇〇	一〇九、〇〇〇、五五五	二、〇〇〇、五五五	二、〇〇〇、五五五
知内	七〇〇、〇〇〇	一六六、〇〇〇、二二二	一、三三三、二二二	一、三三三、二二二
木戸内	二、三三三、三三〇	一八、三三三、三三三	一、〇〇〇、三三三	一、〇〇〇、三三三
茂邊地	四、三三三、五八〇	二二、三三三、三三三	五、一九二、四〇〇	五、一九二、四〇〇
函館	五、一九二、四〇〇	二二、三三三、三三三		
江差	三〇〇、五五〇	八六、二五五、二二四	四、二二二、二二四	四、二二二、二二四
石崎	六二二、四四〇	九八、三三三、三三三	三、〇〇〇、三三三	三、〇〇〇、三三三
江良町	五二九、四一〇	九八、三三三、三三三	三、〇〇〇、三三三	三、〇〇〇、三三三
福山	五〇一、〇八〇	一〇三、三三三、三三三	二、五〇〇、三三三	二、五〇〇、三三三
福島	五〇二、四〇〇	一〇九、〇〇〇、五五五	二、〇〇〇、五五五	二、〇〇〇、五五五
知内	七〇〇、〇〇〇	一六六、〇〇〇、二二二	一、三三三、二二二	一、三三三、二二二
木戸内	二、三三三、三三〇	一八、三三三、三三三	一、〇〇〇、三三三	一、〇〇〇、三三三
茂邊地	四、三三三、五八〇	二二、三三三、三三三	五、一九二、四〇〇	五、一九二、四〇〇
函館	五、一九二、四〇〇	二二、三三三、三三三		
札幌	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺	里丁四尺
永山	七〇五、四〇〇	五、四〇〇、二〇〇	八三、二二五、九〇〇	八三、二二五、九〇〇
永豐	七〇五、四〇〇	五、四〇〇、二〇〇	八三、二二五、九〇〇	八三、二二五、九〇〇
瀨棚	一、五〇九、二八〇	六、一〇三、四八四	六八、〇三三、一〇〇	六八、〇三三、一〇〇
太櫓	二、二二一、〇一〇	六、三三三、五〇〇	六五、一八二、九九〇	六五、一八二、九九〇
久遠	七〇七、二五〇	七、〇三三、一五四	五八、一一〇、四〇〇	五八、一一〇、四〇〇
熊石	六〇二、二四四	七、六三三、五九四	五二、〇八、二二〇	五二、〇八、二二〇
乙部	六二〇、五〇〇	八三、一九五、三三四	四五、二二二、三六〇	四五、二二二、三六〇

移住諸項

北海道各地陸路里程

二百五十四

札幌—室蘭—函館間			
驛名	里數	自札幌	自函館
空知太	三〇九四六〇	二二二二一四三	六九一九二八〇
音江法華	六〇〇〇〇〇	二七三二一四三	六三一九二八〇
忠別	六〇八二八〇	三三三三三三三	五七〇一〇〇〇
永山	二〇〇〇〇〇	三六三三三三三	五五〇一〇〇〇
伊香牛	三〇〇〇〇〇	三九三三三三三	五三〇一〇〇〇
越路	五〇〇〇〇〇	四四三三三三三	四八〇一〇〇〇
中越	四三三三〇〇〇	四九三三三三三	四三〇一〇〇〇
野上	一五〇一〇〇〇	六四三三三三三	二七〇〇〇〇〇
佐路間	四一八〇〇〇	六八三三三三三	二二一八〇〇〇
留邊藥	四一八〇〇〇	七三三三三三三	一八〇〇〇〇〇
栢ノ内	五〇〇〇〇〇	七八三三三三三	一三〇〇〇〇〇
端野	四〇〇〇〇〇	八三三三三三三	九〇〇〇〇〇〇
歲越	四一八〇〇〇	八八三三三三三	四一八〇〇〇〇
網走	四一八〇〇〇	九三三三三三三	
川村—岩内間			
驛名	里數	自川村	自岩内
函館	四〇八〇〇〇	四〇八〇〇〇	四〇八〇〇〇〇
七飯	七二〇〇〇〇	四〇八〇〇〇	四〇八〇〇〇〇
森	二四〇〇〇〇	二四〇〇〇〇	二四〇〇〇〇〇
室蘭	四一六三三五〇	四一六三三五〇	四一六三三五〇〇
幌別	六三三三三三〇	六三三三三三〇	六三三三三三〇〇
白老	五二二五一一〇	五二二五一一〇	五二二五一一〇〇
苦小牧	六三三四〇〇〇	六三三四〇〇〇	六三三四〇〇〇〇
千歲	三三四〇〇〇〇	三三四〇〇〇〇	三三四〇〇〇〇〇
島牧	五二七四四五〇	五二七四四五〇	五二七四四五〇〇
札幌	里丁間尺	里丁間尺	里丁間尺
川村	里丁間尺	里丁間尺	里丁間尺
岩内	里丁間尺	里丁間尺	里丁間尺

室蘭—長万部—森間			
驛名	里數	自室蘭	自森
野塚	五三三三〇七三	一〇二二五〇四四〇	一四一八三三三
神惠内	七二二二二三五	一八二二二二七五	六三三三〇〇〇
泊	三二七〇〇〇〇	二二〇二二二七五	三〇六〇〇〇〇
岩内	三〇六〇〇〇〇	二五〇八二七五	
網走—釧路間			
驛名	里數	自網走	自釧路
黑岩	五〇三三三三	二八〇〇二〇三	一〇〇九四八〇
山越内	四二二二四八〇	三三三三三三三	六二二四〇〇〇
森	六二二四〇〇〇	三九一〇〇八三	
釧路—厚岸間			
驛名	里數	自釧路	自厚岸
長万部	六二二八三三〇	二二二二二二二	一六二二二二二
禮文華	四〇三三三三〇	一六〇二二二二	二二二二二二二
蛇田	七二二二二二〇	二二二二二二二	二二二二二二二
元室蘭	四一七三三五〇	三三三三三三三	三三三三三三三
室蘭	里丁間尺	三九一〇〇八三	里丁間尺
月形—増毛間 <td></td> <td></td> <td></td>			
驛名	里數	自月形	自増毛
網走	七〇九二一〇	七〇九二一〇	七〇九二一〇〇
小清水	三二八五八〇	三二八五八〇	三二八五八〇〇
野川	三二七五一一〇	三二七五一一〇	三二七五一一〇〇
硫黄山	一一二二四〇一一	一一二二四〇一一	一一二二四〇一一〇
標茶	五二二二二二二	五二二二二二二	五二二二二二二〇
塘路	三三三三三三三	三三三三三三三	三三三三三三三〇
釧路	六二二二二二〇	六二二二二二〇	六二二二二二〇〇
月形—増毛間			
驛名	里數	自月形	自増毛
新十津川	八〇九二二八〇	八〇九二二八〇	八〇九二二八〇〇
惠	一六二二二二二	一六二二二二二	一六二二二二二〇
仁奈良	一六二二二二二	一六二二二二二	一六二二二二二〇
舍熊	一六二二二二二	一六二二二二二	一六二二二二二〇
増毛	一六二二二二二	一六二二二二二	一六二二二二二〇

移住諸項

北海道各地陸路里程

二百五十五

### 第九章 二十九年區畫地貸下ニ係ル諸項

#### 第一 貸下地區域及貸下方法

○北海道廳告示第三百三十八號 月二十八日 二十九日

明治二十六年<sup>三</sup>北海道廳令第五號北海道土地拂下規則施行手續第一條第一項ニ依リ明治二十九年申貸下クヘキ區畫地ハ左ノ如シ

但シ出願期日及心得方等ハ追テ告示ス

一 石狩國上川郡ビエイ原野	區畫概數	二百五十畫
一 後志國瀨棚郡トシベツ原野	同	二百五十畫
一 十勝國中川十勝兩郡カムワツカ外九原野	同	二千百三十畫
一 同國河西郡ヲビヒロ外二原野	同	八百二十畫
一 同國河東郡シカリベツ外二原野	同	五百四十畫
一 釧路國釧路郡トリトウシ外二原野	同	八百九十畫
一 同國阿寒郡セチリ外六原野	同	三千四百六十畫
一 同國川上郡クマウス外六原野	同	二千二百二十畫
一 天鹽國留萌郡ルモイ原野	同	百五十畫

- 一天鹽國留前郡ヲピラシベ原野 區畫概數 三百十畫
- 一同國古前郡コタンベツ原野 同 三百八十畫
- 一同國同郡ハホロ原野 同 二百五十畫
- 一天鹽國古前郡チクベツ原野 同 百七十畫

○北海道廳告示第五號 二十九年一月二十四日

明治二十八年<sup>十二</sup>月 北海道廳告示第三百二十八號區畫地貸下ニ付テハ明治二十六年<sup>三</sup>月 北海道廳令第五號北海

道土地拂下規則施行手續ニ依ルノ外尙ホ左ノ通り心得ヘシ

一各原野出願期日及土地引渡期日ハ別表ノ通り之ヲ定ム

二土地貸下願書ハ石狩國原野ヲ除クノ外左ノ如ク所轄郡役所ヲ經テ差出スヘシ

但シ十勝釧路兩國各原野土地貸下願書ニ限リ該方面ニ殖民課員出張中該出張員ニ差出スコトヲ得

後志國原野ハ檜山外五郡役所

十勝釧路兩國原野ハ釧路外十二郡役所

天鹽國原野ハ増毛外五郡役所

出願者ノ數區畫數ニ滿チタルトキハ願書ヲ受理セサルコトアルヘシ

三貸下地積ハ一戸ニ付一區畫即チ一萬五千坪ヲ標準トス

二區畫以上貸下ヲ必要トシ其起業方法確實ナル者ニハ詮議ノ上特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

四貸下ヲ受ケントスル區畫地ノ位置ハ殖民課出張員ニ於テ指定スルコトアルヘシ

五殖民課出張員ハ貸下出願者ヲ便宜ノ箇所ニ召喚シ其經歷及成功ノ目的等必要ノ事項ヲ陳述セシムルコトアルヘシ

トアルヘシ

六殖民課出張員ニ於テ起業方法等確實ト認ムル者ニシテ直チニ著業ヲ望ム者アルトキハ著業期日ヲ定メ

假ニ土地ノ引渡ヲ爲スコトアルヘシ

七前項土地假引渡ノ後著業期日以内ニ該地ニ於テ小屋掛及開墾ニ著手セサル者ハ土地假引渡ノ効ヲ失フ

モノトス

八假引渡無効ニ屬シタル者ノ土地貸下願書ハ之ヲ返付セス

九團結移住ニ係ル出願者ハ北海道廳ニ於テ定メタル團結移住ニ關スル要領ニ依リ取扱ヲ爲スヘシ

區畫地出願期日及土地引渡期日表

原野名	出願期日	土地引渡期日
石狩國ビエイ原野	三月一日以後	四月一日以後
後志國トシベツ原野	同	同
十勝國各原野	同	同
釧路國各原野	同	同
天鹽國各原野	同	同



### 第一 區畫地狀況

#### 石狩國「ビエイ」原野

地勢 本原野ハ「ビエイ」川沿岸字「オキキニウシ」、「ボンビエイ」間ノ平地ニシテ石狩國上川郡ニ屬ス東北ハ小丘ヲ以テ御料地ニ隣リ其他ハ悉ク山ヲ以テ圍繞セラル

地味 原野ノ三分ノ二ハ概テ高燥ナル樹林地ニシテ土壤稍肥沃ナルモ其他ハ砂礫表面ニ露出シテ耕地トナス能ハサル所多シ

氣候 冬季ハ寒冷ニシテ霜雪共ニ早キモ夏季暑熱ノ強キハ忠別原野ニ異ナラスト云フ

用水 「ビエイ」本川ノ下流ヲ除クノ外ハ諸細流皆清淨ニシテ飲料ニ適スルモ味稍苦澁ナリ

交通 本原野ヨリ旭川市街ニ達スル徑路アリ又旭川市街ヨリ該原野ヲ橫斷シテ「フラヌ」原野ニ聯絡シ延テ十勝原野ニ通スル豫定道路並ニ鐵道豫測線路アリ他日是等完成ノ後ニ至ラハ敢テ今日ノ僻地ニアラサルヘシ

市場 目下本原野ヨリ旭川市街又ハ永山兵村番外地ニ至ルニ凡七里アリ

里程 室蘭ヨリ空知太マテ流車百八哩半札幌ヨリ空知太マテ流車五十哩空知太ヨリ旭川市街マテ十四里五丁

#### 後志國「トシベツ」原野

地勢 利別原野ハ瀨棚郡瀨棚村ニ屬シ瀨棚ヲ距ル東方四里利別川中流ノ右岸ニ在リ東西一里南北一里半

東ハ低山ヲ負ヒ北ハ狩場山脈ニ達シ西ハ目名川ヲ以テ其西境ヲ限ル原野ハ三階ノ棚地ヨリ成リ概シテ高燥ナレトモ每階廣ク一望平地ノ如シ

地味 目名及利別川沿岸ニ於ケル樹林ハ表層新沖積土ヨリ成リ地味豐饒ニシテわかだも、やちだも、はんのき、さ、な、つば等繁茂シ中段及高原ハ腐植土及古沖積土ノ二層ヨリ成リわかだも、はんのき、なら、さ、よもぎ、かや等生ス

氣候 札幌ニ比スレハ稍温暖ニシテ積雪四尺ニ達スルヲ例トス

用水 目名及其他ノ細流ハ水質皆佳良ニシテ飲料ニ適ス

交通 西方四里ニシテ瀨棚ニ至リ東方十一里ニシテ國邊ニ達シ共ニ一條ノ道路通シテ人馬通行ノ便アリ

#### 十勝國區畫地概況

十勝國ハ本道殖民地中最大面積ヲ有シ其大部ハ高原ニシテ階段ノ地大小川流多シト雖モ地勢概テ平坦ナリ國中農業上最モ便利ニシテ耕作ニ適スル土地ハ十勝川沿岸左右ノ原野ニ若クハナシ而シテ上流「ニトマツプ」ヨリ下流大津河口ニ至ル三十餘里間ニ連亘ス本區畫地ハ即チ其沿岸ニシテ地味最モ膏腴、樹林アリ草原アリ國道ハ大津河口ヨリ十勝川右岸ノ各原野ヲ橫斷シテ「ビバイロ」川ニ達シ車馬ヲ通ス十勝川ハ舟楫至テ便ニシテ七八十石ヲ搭載スルノ船舶容易ニ上下スルヲ得思フニ小流船ノ如キモ大津、利別太間ハ浜上敢テ難キニアラサル可シ

大津ハ大津河口ニアルニ小市ニシテ十勝郡ニ屬シ戸長役場、病院、郵便電信局、小學校、寺院、警察分署等

アリ商塵相接シ日用必需ノ物品備ハラサルナシ釧路ニ至ル道路ハ海岸ニ沿フテ通シ汽船ハ時々出入シテ函館トノ交通アリ然レモ海水灣入淺ク風波荒ク汽船僅ニ寄航シ得ルモ數時ノ碇泊難シ加フルニ河口ハ波濤常ニ高ク舢舨ノ出入極メテ危險ナリ故ニ府縣人ニシテ十勝國各原野ニ移住セントスルモノハ釧路港ヲ經テ陸路ヲ取ルニ如カス寒暑溫度ノ差著シク最高最低共ニ石狩國上川原野ニ次キ降雪ハ十一月下旬ヨリ翌年三月下旬マテトシ堆積平均二尺乃至三尺トス而シテ降霜ハ晚春初夏ニ尙止マサルコトアリ又初霜ハ九月下旬ニシテ十月下旬ニ至レハ連日嚴霜アリテ朝夕夜間大ニ寒氣ヲ加フルモ晝間ハ溫暖ニシテ風雨至テ少ナク秋候猶ホ春日ノ如シ且ツ農作期中ノ平均溫度ハ釧路地方ニ比シテ高ク普通作物ニ適セサルハナシ今左ニ各原野ノ地理ヲ列記シ其位置ヲ示サントス

「オサウス」原野

本原野ハ十勝郡ニ屬シ大津川右岸「ガンガンピラ」ノ崖下ニアリ山趾河岸相接シ概テ濕潤ノ草地ナリ帶廣ニ至ル既成道路ハ原野ヲ貫通シ且ツ大津市街ニ近ク交通至便ノ地タリ

「タツブコライ」原野

大津ヲ距ル一里餘大津川右岸ノ地ニシテ中川郡ニ屬シ地勢南北ニ長ク對岸ハ「タンチオタ」ノ草原ニシテ舊土人部落アリ

「ウシシベツ」原野

茂岩驛ハ原野ノ中央ニアリ大津ヲ距ル五里地味肥沃草原樹林相半シ濕潤ノ地多シト雖モ排水スルニ於テ

ハ開墾容易ニシテ良圃ヲ得可シ

「トウナイ」原野

南ハ「ウシシベツ」原野ニ接シ十勝川ハ其東方ヲ流レ國道ハ西方山趾ニ沿フテ原野ヲ貫キ大津ヲ距ル凡七里内部ニ「キムン」「ベカンベウシ」等ノ沼池アリ地勢概テ卑濕ニ屬スト雖モ地味肥沃交通亦至便ナルヲ以テ多少ノ排水渠ヲ設ケ土地ヲ改良スルニ至ラハ好殖民地タルヘシ

「トシベツ」原野

利別川ノ十勝本流ニ合スル處ニシテ「シボムサム」「テフタ」兩村ヲ合稱ス大津ヲ距ル九里餘樹林草原相半シ土地肥沃舊土人部落アリ移民ノ農業ニ從事スルモノアリ後來囑望ノ地タリ本地大津間ハ舟楫至便七八十石積ノ船舶ハ容易ニ上下スルヲ得

「ヤムワッカ」原野

十勝川ノ右岸支流「マクンベツ」川ノ東ニ位シ草原アリ高燥地ハ樺林ヲ交ヘ地味肥沃「マクンベツ」川ハ水色清澄且ツ河岸ニ清泉湧出スルアリ最モ飲料ニ適ス此地大津ヨリ九里二十九丁國道其南ヲ貫キ帶廣ニ通スル要路ニ當ル「サルベツ」市街ハ原野ノ稍西端ニアリ既ニ郵便局、驛遞、旅舍等ノ設アリ

「イカンベツ」原野

「マクンベツ」川ヲ以テ「ヤムワッカ」原野ト相對シ土壤頗ル豐饒過半樹林地ニシテ各種ノ濶葉樹繁茂シ樹幹直立時ニ大樹ヲ見ル國道ハ其南端ヲ通シ「サルベツ」市街ニ接ス大津ヨリ十里「マクンベツ」川ニ沿フテ

舊土人ノ開墾地アリ又府縣ヨリノ來住者此附近ニ多シ

「チロット」原野

十勝川ノ右岸大津ヲ距ル十三里ノ所ニアリ舊土人部落アリ樹林地多ク野桑ニ富ミ草原少ナシ清泉處々ニ湧出シ細流亦頗ル多シ地味膏腴帶廣市街ニ二里、國道ノ通スルアリ最良ノ殖民地ト謂フ可シ

「サツナイ」原野

十勝川ノ右岸札内川ノ東岸ニ位シ「ボンサツナイ」川ハ原野ノ中央ヲ流レ「トベツ」川其南方ヲ流ル過半樹林ニシテ大木老樹多シ「トベツ」川ノ沿岸ハ草地ニシテ稍卑低水利ノ便アリ地味ノ肥沃ナル「チロット」原野ニ異ナルナシ此地亦野桑ニ富ム運輸交通ノ便開ケ帶廣市街トハ札内川ヲ以テ相隣シ其距離僅ニ半里ニ過キス「ボンサツナイ」ニハ從來舊土人ノ部落アリ農業ヲ事トス

「シホロ」原野

十勝川ノ左岸「シホロ」川ノ合スル所ニ位シ原野ハ「シホロ」川ニ沿フテ北ニ延布シ草原地多シ且ツ帶廣市街ニ接近シ「チロット」ヲ經テ大津ニ出ルニハ十勝川ヲ利用シ舟楫ノ便ニ依ルコトヲ得

「オビヒロ」原野

十勝原野ノ中央河西郡ノ東北端ニ位シ大津ヲ距ル十四里十六丁地勢概テ平坦且ツ乾燥ナリ草原ハ西南ニ向テ開ケ里許ニシテ高原ニ達ス原野ノ東北端ハ中央市街ノアル處ニシテ戶長役場、測候所、農事試作場、驛遞、郵便局、各種ノ商店等アリ市街ヲ距ル半里十勝分監アリテ本原野ノ大部分ヲ占ム蓋シ本原野ハ十勝

國四通八達ノ要區ニ當ルヲ以テ將來一大都會タルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

「フシコベツ」原野

帶廣村ノ西ニ距ル一里弱河西郡ニ屬ス地勢帶廣ニ同シク地味亦伯仲ス道路ハ原野ノ中央ヲ正西ニ直貫シ「ビバイロ」川ニ至リテ盡ク樹林草原相半シ開墾頗ル容易ノ地ナリ本原野ニハ舊土人部落ノ大ナルモノアリテ專ラ農事ヲ營ム移民ノ開墾ニ從事スルモノ少ナカラス

「メムロ」原野

東ハ「ビバイロ」川ヲ以テ「フシコベツ」原野ト界シ十勝川其北方ヲ流レ「ビバイロ」川ノ西岸ハ平坦ニシテ地味肥沃草原多シ「メムロ」川ハ原野ノ殆ント中部ヲ流レテ十勝川ニ注キ水質清澄ニシテ飲料ニ適シ灌溉用水ニ供スヘキ細流少ナシトセス帶廣市街ヲ距ル西方三里間ハ既成國道ニ沿フモ本原野内ニハ未ダ道路達セス然レトモ徑路ノ通スルアリ致テ交通杜絶ノ地ト云フヘカラス他日石狩國ニ達スルノ國道延長シテ原野ノ一端ヲ貫通セハ甚タシキ不便ナキニ至ラン

「オトブケ」原野

河東郡ニ屬シ十勝川ノ左岸ニアリ川ヲ隔テ、「オビヒロ」原野ト南北相對ス「オトブケ」川ハ屈曲原野ノ中央ヲ流レ河口ヨリ凡一里舊土人部落ノアル處ヲ「ニブシベツ」ト云フ土地乾燥ニシテ膏腴河岸ヲ除クノ外ハ概テ草野ニシテ豊草繁茂シ殆ント馬脊ヲ沒ス「オトブケ」川ノ左岸ハ樹木密生野生ノ桑樹多シ帶廣市街トハ僅ニ十勝川ヲ隔テ、相對シ徑路相通ス

「シカリベツ」原野

「シカリベツ」河口沿岸及字「シフサラ」ノ地ヲ以テ「シカリベツ」原野ト稱ス本原野ハ「フシコベツ」ヲ距ル一里半十勝川ノ左岸ニアリテ河東郡ニ屬ス地味最モ肥沃河畔ヲ除クノ外ハ概テ草原ニシテ時々湿地アリ「シカリベツ」ノ高丘ハ斷崖川ニ臨ミ屹立凡百八十尺本州第一ノ勝地ニシテ之レニ登臨セハ高原平野廣漠トシテ極目際ナシ

「メムロプト」原野

帶廣市街ヲ距ル凡四里半「メムロ」原野ノ對岸ニシテ河東郡ニ屬ス「ウバルベナイ」、「ヲトイベナイ」ハ共ニ舊土人部落ノアル處一條ノ徑路相通シテ人馬交通ノ便アリ土地多クハ草原ニシテ膏腴北方ハ低山ヲ以テ圍マレ十勝川ハ蜿蜒其南方ヲ流ル

「ケネ」原野

本原野ハ十勝川上流ニ位シ既設區畫地ノ盡クル處ニシテ帶廣市街ヨリ「シカリベツ」又ハ「メムロプト」原野ノ徑路ヲ經テ六里餘河東、上川兩郡ノ境ニ接ス地勢地味「メムロプト」原野ニ略相似タリ是レヨリ上流ニハ部落ノアルナシ然レトモ原野尙ホ盡キス交通道路ノ完成ヲ待テ區畫ヲ延長シ移民ヲ容ル、ニ至ラハ本原野モ今日ノ如ク十勝原野ノ盡頭ニアラサルヘシ

釧路國殖民地區畫地概況

釧路國ハ本道殖民地中石狩十勝兩國ニ次ク一大原野ニシテ高原平野ヲ合セ面積凡五億萬坪アリ釧路川ハ

其源ヲ屈斜呂湖ニ發シ阿寒川ハ其源ヲ阿寒湖ニ發シ共ニ幾多ノ支流ヲ合シテ國內原野ヲ涵養シ海ニ注ク釧路、雪裡及阿寒川ノ下流沿岸原野ハ概テ平坦ニシテ湿地多ク水源ニ向テ漸々昇昂シ上流高原ニ至リテハ海拔五百乃至六百尺アリ

河畔平地ノ土壤ハ新沖積土ニシテ其層厚ク二尺乃至三尺アリ高原地ハ表層一尺乃至二尺ノ腐植土ニシテ其色黒ク上部ニ二三寸ノ火山灰アリ諸川沿岸肥沃ノ平地ニハわかだも、やちだも、くるみ、やちかば、はんのさ、な、つば、いらくさ等ノ草木到ル處ニ繁生スト雖モ就中阿寒川沿岸原野ヲ最トス高原地ハ概テなら、かしは、かば、さろ、かや、よもぎ、はぎ、わらび、こざ、等ニシテ卑濕地ハはんのさ、よし、すげ、ぎぼし等ヲ生ス然レトモ阿寒及屈斜呂湖畔、「ピルワ」、跡佐登ノ高原ニ至リテハ處々ニ針葉樹ノ密生スルヲ見ル

氣候ハ石狩國ニ比シ平均温度低ク初霜十月上旬、終霜五月下旬、初雪十一月上旬、融雪四月下旬ニシテ積雪三尺乃至四尺ヲ例トス晩春ヨリ初夏ニ至ル間濃霧ノ爲メ寒冷ヲ覺ユルコトアリ

國內ニ通スル道路ハ釧路港ヨリ標茶跡佐登ヲ經テ北見國網走ニ達スル國道標茶ヨリ厚岸灣ニ至リ厚岸ヨリ釧路ニ通スルノ既成道路ノ外阿寒、雪裡、「ホロ」、「ニ至ル徑路ノアルアリ加フルニ諸川ハ水勢緩慢ナルヲ以テ舟楫ニ便ナリ

釧路港ヨリ水路標茶、雪裡、阿寒ニ至ル間三十石乃至五十石積ノ舟ヲ浜上スルコトヲ得標茶ヨリ跡佐登ニ至ル間ニハ二十七哩ノ鐵道アリテ運輸交通ノ便備ハレリ

泥炭地ヲ除クノ外原野ヲ貫通スル諸川ノ流水清澄ニシテ飲料ニ適シ又高原ト雖モ甚タ高カラサルヲ以テ

井ヲ穿テハ良水ヲ得ル難カラサルヘシ

國內第一ノ市場ハ釧路港ニシテ函館ト終年航通ノ便絶ユルコトナク國內ノ需用供給皆此港ニ仰ク市街ノ戸數僅ニ千戸ニ過キスト雖モ郡衙、學校、警察署、區裁判所、郵便電信局、病院、寺院等アリテ一大市街ノ狀自ラ備ハルヲ以テ本港ヲ基點トシ各原野ノ位置及里程ヲ示シ移住者ノ便ニ供セントス

「ベッポ」原野

本原野ハ釧路港ヲ距ル一里釧路郡ニ屬シ「ベッポ」川沿岸ニアリテ三方低山ヲ負ヒ西方釧路川ヲ以テ界ス土地平坦ニシテ沿岸ヲ除クノ外概テ濕潤且ツ春季融雪ノ際河水汎溢シ地味肥沃ニシテ沿岸ノ樹木密生雜草繁茂ス三方低山ニハ針葉樹散生スルアリ釧路港ニ接近シ殖民好適地ナリ

「トリトウシ」原野

本原野ハ釧路港ヲ距ル北方四里釧路郡釧路川沿岸ニ位シ三面平野ニ接シ東一面低山ヲ負フ地形概テ平坦ナリ而シテ原野ノ東北隅ニ一沼地アリ「タッブコップトウ」ト呼フ周圍一里餘鮭ヲ産ス又原野濕地多ク半ハ泥炭質土ナリ現今本地ニ通スル道路ナキモ釧路、塘路間道路ニ依リ「トヤノ」山腹ヲ横切リ通スル時ハ僅ニ二里許ニシテ容易ニ達スルヲ得ヘク又釧路川ニハ汽船ノ航通アルヲ以テ運搬至便ナリ

「オタノシケ」原野

本原野ハ西「シタカラ」原野ニ連リ北ハ「ニ、シベツ」原野ニ接シ東ハ鳥取村ニ界シ南ハ海ニ面ス而シテ東南山麓ト「オタノシケ」川沿岸及海濱ニ接スルノ地ヲ除クノ外概テ濕地ニシテ直チニ耕作スル能ハス

「クチヨロ」原野

本原野ハ「クチヨロ」川沿岸ニアリテ東西凡一里南北四里餘ニシテ其三分ノ二ハ卑濕地ヲ占ム原野ノ中部ヨリ雪裡字「ピラカコタン」ヲ經テ釧路ニ至ル凡十二里然レトモ現今本原野ト雪裡間ハ道路ト稱ス可キモノナク唯僅ニ舊土人通路ノ痕跡ヲ存スルノミ

「クチヨロ」原野

「クチヨロ」原野ハ釧路港ヲ距ル北方四里阿寒釧路兩郡ニ跨リ雪裡川沿岸ニ位シ「クチヨロ」、「ホロロ」、「ニタイサ」諸川集合スル所ニシテ地形平坦沮洳地多ク諸川ノ岸塘低クシテ乾燥地少ナシ而シテ現今本原野ニ通スル道路ナク唯雪裡川舟楫ノ便アルノミ

「セチリ」原野

本原野ハ雪裡川沿岸ニアリテ東西一里餘南北四里半ニ亘リ概シテ高原ナレトモ下流ニ至レハ濕地多シ原野ノ南部字「ピラカコタン」(戶長役場所在地)ヨリ釧路ニ至ル凡八里半ニシテ此間人馬通行シ得ヘク又雪裡川ノ舟路ニ依レハ凡九里ニシテ釧路港ニ達スルヲ以テ貨物ノ運搬移住者ノ往復ハ舟路ニ依ルヲ便トス

「ホロロ」原野

本原野ハ阿寒郡ニ屬シ釧路港ヲ距ル北方十里「ホロロ」川沿岸ニアリ地形南北ニ長ク東西ニ短シ兩岸平地少ナク高原多クシテ概テ高燥ナリ而シテ釧路ヨリ此地ニ達スルニ鳥取村ヲ經テ「アンネナイ」丘陵ヲ貫通スル六里許ノ徑路アルモ僅ニ駄馬ヲ通スルニ過キサレハ本原野ヲ距ル東方二里字「ピラカ」マテ舟ニテ雪

裡川ヲ沂リ「ビラカ」ヨリ徑路ニ依ルニ如カス

「ニニシベツ」原野

本原野ハ阿寒郡ニ屬シ「ニニシベツ」川沿岸及阿寒川沿岸ノ一部ヲ包括シ其長サ殆ント四里半ニ亘ル地勢概シテ高燥ナレトモ下流ニ一大濕地アリ阿寒道路ハ原野ノ中央ヲ橫斷シ鳥取村ヲ經テ釧路ニ至ル八里雪裡ヲ經ルドキハ十一里半其他雪裡ヨリ川舟ノ通航アリ

「テシベツ」原野

「テシベツ」原野ハ阿寒川上流沿岸ニ在リ東西一里南北大凡五里地勢概シテ高原其過半ヲ占ム阿寒道路ハ原野ヲ橫斷シ鳥取村ヲ經テ釧路ニ至ル十一里「セチリ」ヲ經テ十三里半共ニ駄馬運搬ノ便アリ其他雪裡、釧路間川舟ノ通スルアルヲ以テ運漕頗ル便ナリ

「シタカラ」原野

本原野ハ上「テシベツ」原野ニ連ナリ下「オタノシケ」原野ニ接シ阿寒、舌辛兩川ノ沿岸ヲ包括シ其幅二十町餘長サ三里半ニ亘ル地勢平坦ニシテ高原ナク下流ニ至ルハ山麓河畔ヲ除クノ外悉ク濕地ナリ原野ノ東端一條ノ徑路アリ「オタノシケ」ヲ經テ釧路ニ至ル大凡九里又河畔ニ沿ヒ鳥取村ニ至ル四里ノ間ハ人馬僅ニ通行スルヲ得其他阿寒川ニハ小舟ノ通スルアリ

「トウロ」原野

本原野ハ釧路港ヲ距ル北方六里餘塘路湖畔及釧路川沿岸ニアリ而シテ網走道路ハ原野ノ殆ント中央ヲ貫

キ塘路村之レニ沿ヒ其戸數二十四戸ニシテ目下多クハ舊土人ナリト雖モ既ニ學校、郵便交換所及驛遞ノ設アリテ教育及交通ノ機關略備ハレリ且ツ北五里餘ニ標茶市街アリ南ニ釧路港アリ殊ニ舟利駄送ノ便アルヲ以テ需用供給兩ナカラ缺クル所ナシ

「コッタロ」原野

本原野ハ釧路、「コッタロ」及「ヌマオロ」川ノ沿岸ニアリテ東西凡一里南北二里餘其東部「シラルトロ」湖畔ノ高丘ヲ除ク外悉ク卑濕地ナリ原野ノ中部ヨリ釧路ヘ凡九里半塘路ヘ二里半標茶ヘ四里半ニシテ共ニ釧路川及其沿岸ニ依リ舟楫駄送ノ便アリ殊ニ釧路港ヨリハ小汽船及五十石舟ノ航スルアリテ貨物ノ運搬旅客ノ通行ニ便ヲ與フ又原野ノ東端ニ網走道路ノ通過スルアリ

「フソッベツ」原野

本原野ハ川上郡ニ屬シ釧路港ヲ距ル北十里標茶ヲ距ル北二里ノ處ニアリ南ハ「コッタロ」原野ニ接シ北ハ釧路分監所屬地ト連續シ南北凡二里餘東西二十町ニ過キス地勢平坦濕地多ク釧路川ハ原野ノ中央ヲ曲流ス河畔及之レニ接續スル樹林平地ハ土壤肥沃ニシテ直チニ耕作シ得ルモ中央ノ卑濕地ハ排水其他ノ改良ヲ要ス

「クマウス」原野

本原野ハ川上郡ニ屬シ釧路港ヨリ標茶ヲ經テ十五里中央釧路川ヲ挾ミ南ハ釧路分監所屬地ニ隣リ北ハ弟子屈原野ト界ス東西二十町南北三里ニ亘ル地勢稍平坦乾燥地多ク濕地少ナシ土壤概シ農耕ニ適ス而シテ

釧路鐵道及網走道路ハ本原野ノ東部ヲ貫通シ運輸ノ便アルノミナラス南方三里ヲ經テ標茶アリ其戸數大凡三百五十戸學校、病院、分監、戶長役場其他硫黃山事務所及商會等アリテ一小市街ヲナス故ニ農家ノ日用品ヲ購求シ得ルノミナラス又農産消流ノ途開ケリ

「テシカ」原野

本原野ハ川上郡ニ屬シ釧路港ヲ距ル(標茶ヲ經テ)十八里東ハ「ビルワ」山趾ニ西ハ「トベツ」御料林ト界シ南ハ「クマウス」北ハ「ビルワ」區畫地ト相接ス東西凡一里南北二里餘釧路川及支流ハ「トベツ」原野ノ中央ヲ貫流ス地勢高燥稍起伏スト雖モ河畔肥沃ノ地ニハあかだも、やちだも等繁茂シ高燥地ニハなら、いたや、かば等疎生ス而シテ南方標茶へ七里網走道路及鐵道ハ原野ノ一端ヲ通過スルヲ以テ運輸交通頗ル便ナリ此地溫泉場浴客常ニ絶ヘスト云フ

「ビルワ」原野

本原野ハ川上郡ニ屬シ釧路ヲ距ル二十里標茶ヲ距ル八里釧路川ノ上流ニ在リ弟子屈原野ノ北方ニ位ス東西凡二里南北一里半概テ平坦ニシテ乾濕殆ント相半ス而シテ東方ニ網走道路及釧路鐵道貫通スルヲ以テ運輸交通頗ル便ナリ

「アトサヌブリ」原野

本原野ハ「ビルワ」原野ノ北方ニ在リ釧路ヲ距ル二十四里標茶ニ至ル十一里餘三面殆ント山ヲ繞ラシ西境ノ一部ハ屈斜路湖ニ臨ム地形東西ニ短ク南北ニ長ク高燥ニシテ稍起伏アリ原野ノ西部ニ硫黃山アルヲ以

テ東部山麓附近ノ地ヲ除クノ外ハ表土概シテ火山灰或ハ燒石ニシテ其層頗ル深シ而シテ跡佐登驛ハ戸數五十餘北見街道ノ要路ニ當リ郵便局アリ驛遞アリ且ツ釧路鐵道ノ終極點ニ當ルヲ以テ標茶トノ交通常ニ絶ヘス

天 塩 國

「ル、モッペ」原野

地勢 本原野ハ天鹽國留萌郡留萌村ニ屬シ留萌川ノ沿岸ニアリ東北南ノ三方ハ皆山ニシテ西ハ留萌市街ニ接シ地勢平坦ニシテ狹長樹林地多ク草原濕地共ニ少ナシ

地味 全原野概テあかだも、やちだも、はんのき、くわ、な、つば等ノ草木繁茂シ土壤最モ肥沃ナリ

氣候 札幌ニ比シ稍寒冷ニシテ積雪五尺ニ達スルヲ例トス然レトモ夏季暑熱強キヲ以テ農耕ニ妨ナシ

交通 原野ノ西端留萌河口即チ留萌灣ハ汽船常ニ出入シ且ツ同灣ヨリ増毛ニ至ル四里ノ間ハ道路修築既

ニ竣功シタルヲ以テ車馬ヲ通シ得ヘシ

用水 留萌川ハ水清キカ故ニ飲料ニ供スルヲ得

市場 留萌灣ハ戸數凡二百戸小市街ニシテ近傍農家ノ需用供給ヲ滿スニ足ル

「オビラシベ」原野

地勢 本原野ハ天鹽國留萌郡三泊村ニ屬シ「オビラシベ」川ノ沿岸ニ在リ東南北ノ三方ハ皆山ニシテ西ハ海ニ面ス地形平坦ニシテ狹長概テ樹林ニシテ草原少ナシ

地味 沿岸樹林地ノ表土ハ新沖積層ヨリ成リあかだも、やちだも、はんのき、くわ、くるみ、な、つば、みづばし、う、さ、等繁茂シ草原ニハ腐植土ヨリ成リかや、よもぎ等ヲ生ス

氣候 札幌ニ比スレハ稍寒冷積雪ハ例年四尺ニ達スルヲ常トス然レトモ夏季暑熱強キニ依リ農耕ニ妨ナシ

交通 原野ノ西端「オビラシベ」川渡船場ヨリ留萌市場ニ至ル二里鬼鹿市場ニ至ル四里兩地共ニ汽船常ニ出入ス

用水 「オビラシベ」川ハ其水清澄ナルヲ以テ飲料ニ供スルヲ得

「コタンベツ」原野

地勢 本原野ハ天鹽國苦前郡ニ屬シ東北ハ苦前村ニ接シ西南ハ力晝村ニ隣リ東南ハ山ヲ負ヒ北西ハ海面ス地形狹長ニシテ概ネ平坦ナリ

地味 樹林地多ク草原地少ナシなら、かしは、いたや、あかだも、やちだも、かば、しころ、はんのき、どろ、くるみ等生シ下ニハくまざ、茂生シ土壤肥沃ニシテ最モ農耕ニ適ス

氣候 冬季ハ寒冷ニシテ積雪亦多シト雖モ平均温度ハ稍高キヲ以テ農作ニハ妨ナシ

用水 河水ハ微濁ヲ帶フレトモ飲料ニ支障ナキカ如シ然レトモ解雪、大雨ノ時ハ黃濁數日ニ亘ルヲ以テ豫メ井ヲ穿ツニ若カス

交通 四季共ニ小樽港ヨリ小汽船ノ通航アリテ運輸交通頗ル便ナリ

市場 苦前村ニ一里餘鬼鹿村ニ四里餘日常ノ需給ニ差支ナシ

「ハホロ」原野

地勢 本原野ハ天鹽國苦前郡羽幌村ニアリ東南北ノ三面ハ皆山ニシテ西方ハ羽幌市場ニ接ス地形平坦ニシテ狹長羽幌川其中央ヲ貫キ北流シテ海ニ注ク

地味 全原野概テ樹林地ニシテ土地最モ豊饒本年中貸下クヘキ天鹽原野中第一位ニ居ル植物ハあかだも、やちだも、はんのき、くわ、くまざ、な、つば、よもぎ等ニシテ多クハ笹生樹林地タリ

氣候 札幌ニ比シ晩秋冬期ハ稍寒冷ナリト雖モ平均温度大差ナク農耕ニ妨ナシ

交通 羽幌川ハ水深クシテ小舟ヲ入ル、ニ足リ且ツ原野ノ西端羽幌河口ニ羽幌灣アリ汽船常ニ寄泊シ又羽幌市街ヨリ南方二里ニ苦前市場アリ汽船常ニ出入シ運輸便ナリ

用水 羽幌川水清淨飲料ニ供スルヲ得

「チクベツ」原野

地勢 本原野ハ天鹽國苦前郡羽幌村ニ屬シ西南ハ高原ヲ以テ羽幌原野ニ連ナリ北東南ノ三方ハ山ヲ負ヒ北西ノ一面海ニ臨ム概シテ高燥ナル樹林地ナレトモ唯沿海ニ一大草原アルノミ

地味 樹林地ハ高原平野共ニ耕作ニ適スルモ草原ハ耕地ニ適セサルヘシ  
氣候 古丹別地方ト大差ナシ

用水 「チクベツ」川及其支流ハ水質清淨ニシテ飲料ニ適ス



交通 原野ノ中部ハ「チクベツ」川沿岸ニ小徑アルニ過キサシモ西北海濱ニ沿ヒ國道ノ貫通スルアリテ羽  
 幌ニ二里苦前ニ四里初山別ニ二里許トス  
 市場 羽幌村市街ヲ距ル凡二里人馬ノ行通アリ該市街ハ近時ノ新設ナレトモ常ニ汽船ノ去來アリ物貨集  
 散ノ途備ハル

第三 區畫地近傍市場物價

前述セシ各原野及殘區畫原野ニ接近セル日用品價格ハ左表ノ如シ

物價表

明治二十八年十一月三十日調

地名	玄米(石)	白米(石)	大麥(石)	小麥(石)	大豆(石)	小豆(石)	粟(石)	黍(石)	玉蜀黍(石)	馬鈴薯(石)	食鹽(石)	味噌(石)	醬油(升)	清酒(升)	白糖(斤)	赤糖(斤)	石油(石)	薪(石)	炭(石)	
札幌	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
石狩	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
江別	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
當別	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
月形	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
千歲	8.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000

地名	玄米(石)	白米(石)	大麥(石)	小麥(石)	大豆(石)	小豆(石)	粟(石)	黍(石)	玉蜀黍(石)	馬鈴薯(石)	食鹽(石)	味噌(石)	醬油(升)	清酒(升)	白糖(斤)	赤糖(斤)	石油(石)	薪(石)	炭(石)	
由仁	8.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
岩見澤	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
砂川	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
歌志内	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
瀧川	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
旭川	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
瀨棚	9.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
國縫	9.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
虻田	9.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
岩内	9.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
大津	11.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
釧路	9.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
白糠	13.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
塘路	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000

標茶	10.000	11.000	12.000	13.000	14.000	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000
硫黃山	11.000	12.000	13.000	14.000	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000	
留萌	12.000	13.000	14.000	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000		
鬼鹿	13.000	14.000	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000			
苦前	14.000	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000				
羽幌	15.000	16.000	17.000	18.000	19.000	20.000	21.000	22.000	23.000	24.000	25.000	26.000	27.000	28.000	29.000	30.000	31.000	32.000	33.000	34.000	35.000	36.000	37.000	38.000	39.000	40.000	41.000	42.000	43.000	44.000	45.000	46.000	47.000	48.000	49.000	50.000					

備考 物價ハ中等品小賣相場ニシテ食鹽一俵ハ四斗入、砂糖一斤ハ百六十匁、炭一俵ハ十貫目ヲ標準トシテ記入セリ

各地商品ノ品質一樣ナラザルヲ以テ價格ニモ自ラ異動アルヲ免レス

大津ノ物價ハ明治二十八年八月三十一日ノ調査ニ係ル

# 北海道移民必携終

明治二十九年五月一日印刷  
明治二十九年五月十五日發行

定價金五拾錢

編纂者 石狩國札幌區北三條東三丁目一番地  
**北海道協會支部**

右代表者 鈴木米三郎

發行者 石狩國札幌區南一條西三丁目六番地  
萱間左右太

印刷者 東京市京橋區築地一丁目二十番地  
野村宗十郎

發行所 石狩國札幌區南一條西三丁目六番地  
進振堂

印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地  
株式會社東京築地活版製造所



版 權 所 有

發 賣 所

東京市日本橋區若松町

柳原友吉

全 京橋區南傳馬町

目黑十郎支店

全 全

有隣堂

穴山篤太郎

北海道小樽

白鳥書店

全 全

近江堂

全 函館

魁文舍

青森縣青森

鎌田書店

發	全	東京市日本橋區若松町	柳原友吉
賣	全	京橋區南傳馬町	目黑十郎支店
所	全	有隣堂	穴山篤太郎
	全	北海道小樽	白鳥書店
	全	函館	近江堂
	全	青森縣青森	魁文舍
			鎌田書店

### 北海道協會々則

#### 第一章 目的、名稱、位置

第一條 本會ハ北海道ニ於ル拓地殖民生産事業ノ普及發達ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ北海道協會ト稱シ本部ヲ東京ニ置キ

支部ヲ北海道ニ置ク

#### 第二章 會務ノ綱領

第三條 第一條ノ目的ヲ達センカタメ北海道ニ關スル精確ナル諸般ノ調査ヲナシテ之ヲ公示シ且該道ノ事業ニ從事セント欲スルモノ、爲メニ勉メテ便利ヲ與フヘシ

#### 第三章 會員

第四條 會員ニハ會員證及ヒ章票ヲ贈付ス會員ハ分テ左ノ四種トス  
名譽會員

#### 終身會員

#### 通常會員

#### 贊成會員

第五條 名譽會員ハ總裁ノ特選ニ依ル

第六條 通常會員ハ會費トシテ年額金三圓ヲ納ムヘシ

一時ニ金三十圓以上ヲ納ムルモノハ終身會員トナシ爾後會費ヲ要セス

第七條 會員タラシコトヲ望ムモノハ屬籍姓名ヲ詳記シ自己携帶或ハ自己ノ信書ヲ添ヘテ本會(北海道ハ支部以下做之)ニ申込ムヘシ但會員ノ紹介ニ依ルモノハ必シモ此例ニ依ラス

第八條 贊成會員ハ本會ノ委囑ヲ以テ會務ノ一部ヲ幫助スルモノトス但會費ヲ要セス

第九條 會費ハ毎年一月五月九月ノ三期ニ分チ年額ノ三分一宛ヲ前納スヘシ其新ニ入會スルモノ

ハ入會ノ期ヨリ月割ヲ以テ徵收ス但便宜ニ依  
リ數期分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ

第十條 會員事故アリ退會セント欲スルトキハ豫テ  
贈付シタル會員證及ヒ章票ヲ添ヘ其旨ヲ本會  
ニ申出ヘシ但既ニ納付シタル會費ハ返付スル  
コトナシ

第十一條 會員中會則ニ違反シ若クハ本會ノ名譽ヲ  
汚スノ行爲アルトキハ評議員會ノ議決ヲ以テ  
除名スルコトアルヘシ

第十二條 會員死亡又ハ轉居シタルトキハ其都度本  
會ヘ届出ヘシ

#### 第四章 總裁及ヒ役員

第十三條 本會ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第十四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一名

副會頭 一名

幹事 五名

評議員 三十五名

第十五條 評議員ハ總會ニ於テ會員ノ投票ヲ以テ在  
東京ノ會員中(賛成會員ヲ除ク)ヨリ之ヲ公選シ會頭副  
會頭幹事ハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム役員  
ノ任期ハ滿二年トシ再三其選ニ當ルコトヲ得  
トス

第十六條 會頭ハ會務ヲ總理シ總會ノ議長タルモノ  
トス

第十七條 副會頭ハ會頭ヲ補翼シ會頭事故アルトキ  
ハ其代理ヲ爲ス

第十八條 幹事ハ會頭ノ旨ヲ承ケテ事務ヲ處理ス

第十九條 會頭副會頭幹事及ヒ評議員ハ名譽職トス  
但幹事ハ報酬ヲ贈與スルコトアルヘシ

第二十條 本部ニ書記ヲ常置ス又事務ノ繁閑ニヨリ  
臨時雇員ヲ置クコトアルヘシ

#### 第五章 評議員會

第二十一條 評議員會ハ三ヶ月毎ニ一回之ヲ開クヘ  
シ但臨時議決ヲ要スル事項アルトキハ會頭之  
ヲ招集ス

評議員會ハ本會經費ノ豫算ヲ議定シ決算ヲ調  
査ス

#### 第六章 總會

第二十二條 毎年三月一日東京ニ於テ全會員ヲ招集  
シテ總會ヲ開キ評議員ノ改選(隔年)會則ノ更  
正其他本會ノ利害ニ關スル重要ナル議案ヲ審  
議々決スルモノトス

評議員會ニ於テ議定シタル本會經費豫算決算  
ハ之ヲ總會ニ報告ス

第二十三條 會頭ハ必要ト認ムルトキハ評議員會ノ  
議定ヲ經テ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十四條 總會ノ議事ハ過半数ニ依テ決ス可否同  
數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第二十五條 會員ニシテ其意見ヲ總會ノ議題トシテ  
提出セントスルモノハ通常會員十名以上ノ贊  
成ヲ得テ遅クモ毎年一月中ニ書面ヲ以テ本會  
ニ提出スヘシ會頭ハ評議員會ノ議定ヲ經テ之  
ヲ總會ノ議案中ニ採用スヘキヤ否ヲ決スヘシ

#### 第七章 地方委員

第二十六條 地方委員若干名ヲ會員中ヨリ選定シ各  
地方ト北海道トノ關係ニ就テ緊要ト認ムル實  
況ヲ本會ニ報道スルコトヲ勉メシメ又ハ本會  
ヨリ特ニ囑託スル事務ヲ處理セシム

地方委員ハ會頭ノ意見ヲ以テ臨時之ヲ囑託ス  
ルモノトス但任期ヲ定メス

#### 第八章 雜件

第二十七條 本會ニ金圓物品ヲ寄附スルモノアルト  
キハ會頭ノ署名ヲ以テ謝狀ヲ贈リ寄附者ノ姓  
名ヲ帳簿ニ録シテ永ク之ヲ保存シ且報告書ニ

掲ケテ廣告スヘシ

第二十八條 北海道協會報告ヲ發行シ本會ノ景況及ヒ成績ヲ會員ニ報告ス

第二十九條 本則ヲ施行スル爲メ必要ナル細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

第三十條 本則ハ總會ノ議定ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第九章 支部

第三十一條 支部ハ之ヲ北海道札幌ニ置ク

必要ニ依リ該道樞要ノ地ニ支部出張所ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 支部ニ左ノ役員ヲ置ク

支部長 一名

幹事 五名

評議員 二十五名

出張所ヲ設クルトキハ各幹事一名委員七名以

内ヲ置ク

第三十三條 評議員ハ在北海道會員ノ投票ヲ以テ在札幌ノ會員中(賛成會員ヲ除ク)ヨリ之ヲ公選シ支部長

及ヒ幹事ハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム  
出張所幹事及ヒ委員ハ支部長ノ推薦ニ依リ會頭之ヲ定ム

役員ノ任期ハ滿二年トシ再三其選ニ當ルコトヲ得

ヲ得

第三十四條 支部長ハ事ヲ會頭ニ承ケ支部ノ事務ヲ整理ス

整理ス

支部長事故アルトキハ幹事其代理ヲ爲ス

第三十五條 幹事ハ支部長ノ旨ヲ承ケ事務ヲ處理ス

委員ハ出張所幹事ヲ助ケ其事務ニ參與ス

第三十六條 支部長幹事評議員及委員ハ名譽職トス

但幹事ハ報酬ヲ贈與スルコトアルヘシ

第三十七條 支部ニ書記ヲ常置ス又事務ノ繁閑ニ依

リ臨時雇員ヲ置クコトアルヘシ

第三十八條 支部ニ於テ所屬會員ノ總會ヲ必要トス

ルトキハ支部長ハ會頭ノ認可ヲ得テ適宜開會スルコトヲ得

第三十九條 本章掲クルモノ、外本則各條項中本章

ト矛盾セサルモノハ都テ支部ノ規定ニ適用ス

附則

第四十條 現在ノ役員ハ明治廿八年總會ノ改選期マ

テ繼續シテ其任ニ當ルモノトス

第二條 名譽會員ニハ總裁ヨリ名譽章ヲ贈與シ終身

會員通常會員賛成會員ニハ會頭ヨリ會員章ヲ

贈與ス

第三條 章票ノ圖式左ノ如シ

第四條 會員章簿冊ヲ製シ章票ヲ贈與スル毎ニ人名

番號年月日等ヲ記入ス

第五條 會員自ラ退會若クハ本會ニ於テ退會セシメ

タルトキハ其章票ヲ返付セシム

第六條 章票ヲ毀損シ或ハ亡失シタルトキハ其請求

ニ依リ更ニ贈與スルモノトス但請求者ヲシテ

其原價ヲ償ハシム

附則

第七條 從來ノ會員ニシテ會費ノ怠納アルモノハ其

完納ヲ俟テ章票ヲ贈與ス

第八條 新タニ入會シタルモノハ其一年額ノ會費ヲ

納ムルノ後章票ヲ贈與ス

北海道協會章票規程

第一條 本會ニ對シ多額ノ金圓物件ヲ寄贈シ若クハ

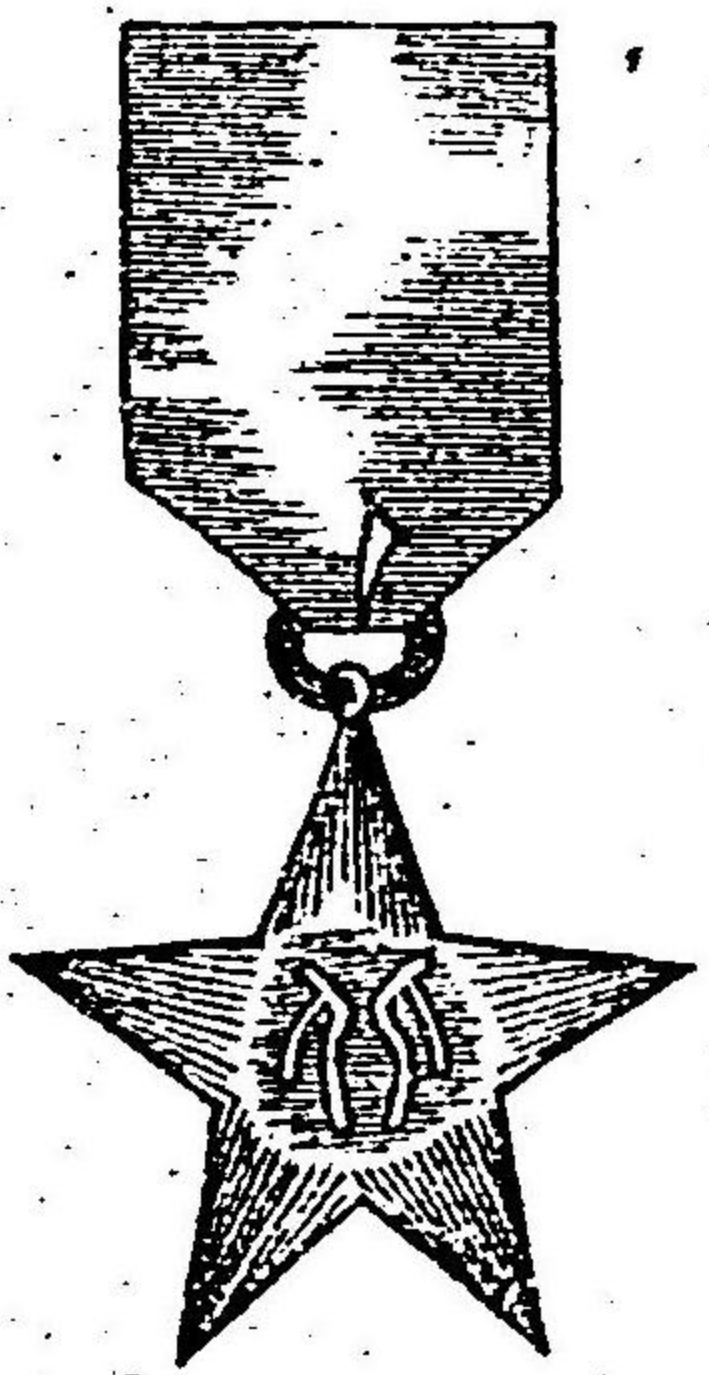
本會ニ莫大ノ利益ヲ與ヘ其他特殊ノ功勞アル

モノニハ總裁ヨリ有功賞ヲ贈與ス

章 票 圖 式

種 別	票	綬
有功章	徑一寸五分 金色 五稜形ニシテ中央ニ七寶燒ヲ以テ綠色北字又裏面ニ北海道協會有功章ノ字ヲ記ス	紅 色
名譽會員章	徑一寸 金色 圓形ニシテ中央ニ五稜形ヲ鑄リ其中心ニ北字又上部ニ北海道協會ノ字ヲ記ス	全 上
會員章	徑一寸 銀色前 全 斷	全 上

有功章



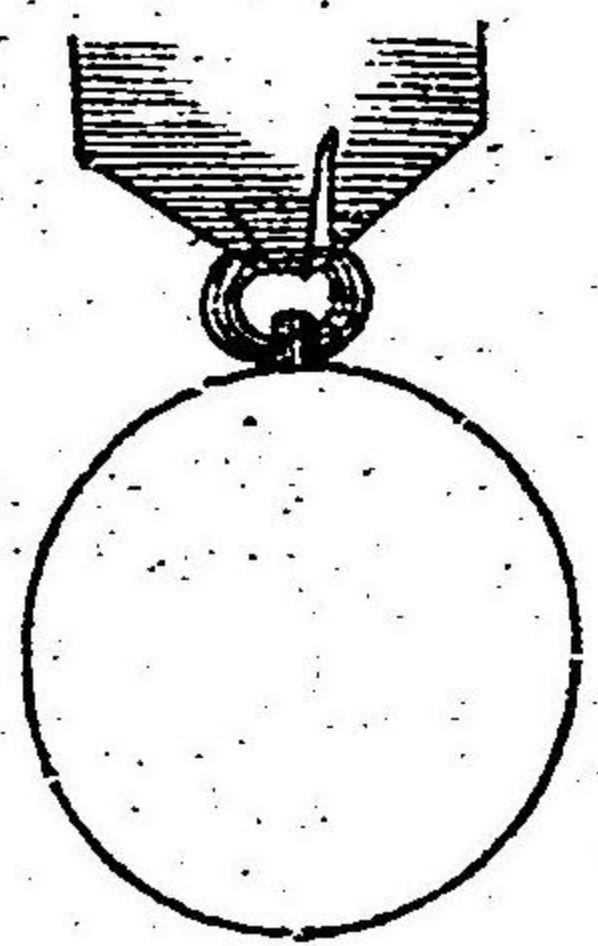
全上裏面



會員章



全上裏面



北海道協會細則

第一章 事業

第一條 本會規則第一條ノ目的ヲ達センカ爲メ當分

左ノ事業ヲ爲ス

- 第一 左ノ事項ヲ調査スル事
  - 一 移住スヘキ土地ノ實況
  - 二 移住ノ手續並著業ノ順序
  - 三 農業ニ關スル事項
  - 四 水産ニ關スル事項

第二 左ノ方法ヲ以テ調査シタル事項ヲ公示スル事

- 一 新聞紙ニ掲載スル事
- 二 臨時公開演說ヲ爲ス事
- 三 各人ノ問合ニ應答スル事
- 四 地圖統計報告書等ヲ備付ケ諸人ノ閱覽ヲ許ス事

五 雜業ニ關スル事項

六 北海道全般ノ情況

七 北海道諸物産ニ關スル事項

第三 左ノ方法ヲ以テ移住者ノ便利ヲ謀ル事

一 汽車汽船等ノ運賃低減ヲ謀ル事

二 土地貸下願其他ノ手續ヲ指示スル事

三 北海道樞要ノ地ニ於テ宿泊其他ノ周旋ヲ爲ス事

四 北海道諸物産ノ販路ヲ探求スル事

第二章 組織

第二條 本部ニ庶務會計支部ニ調査會計ノ二掛ヲ置

キ幹事ヲ以テ之ニ充テ書記若干名ヲ屬ス

第三條 本部ハ第一條第二項及ヒ第三項中第一第四ノ事務ヲ取扱ヒ支部ハ第一條第一項及第三項中第二第三ノ事務ヲ取扱ヒ諸材料ヲ本部ニ送付ス

第四條 幹事書記ノ分課定員左ノ如シ

支 部	會 計	調 査	四	一	一
	庶 務	會 計	四	一	二
		幹 事	名譽職	有報酬	書 記

第五條 幹事ノ報酬ハ月額貳拾圓以下書記ノ給料ハ同ク拾貳圓以下トス

會頭ハ必要ニ依リ或ル事項ノ調査ヲ専門技術家ニ囑託シ且適宜報酬ヲ贈與スルコトヲ得

第六條 幹事ハ會頭若クハ支部長ノ認可ヲ得テ臨時雇員ヲ置クコトヲ得

第七條 支部長ハ北海道各地方ニ通信員ヲ置クコトヲ得

第三章 事務分擔

第八條 諸掛ハ左ノ事務ヲ分擔ス

庶務掛(本部)

文書往復ノ事

公示案起草發送ノ事

割引切符ノ取扱ノ事

諸應接ノ事

諸報告取調ノ事

第九條 寄附金及會費ハ割符ヲ以テ領收ス

第十條 收入金ハ某銀行ニ當座預トナシ小切手ヲ以テ引出スモノトス

第十一條 支部ノ收入及支拂ハ每四ヶ月本部ニ報告スルモノトス

第十二條 支部ノ經費ハ支部ノ收入ヲ以テ之ニ充テ其不足アル場合ハ本部ニ請求スルコトヲ得

第十三條 豫算決算ハ毎年度一月ヨリ十月マテ本部ニ於テ之ヲ調製シ評議員會ノ議定ヲ經之ヲ總會ニ報告ス但支部ノ豫算ハ每前年度十一月決算ハ翌年度一月ニ本部ニ送付スヘシ

諸集會ノ事

會員名簿會員證及章票取扱ノ事

其他會計掛ニ屬セサル事項

會計掛(本支部)

寄附金會費其他收入ノ事

諸經費支出ノ事

豫算決算ノ事

印章及物品等管理ノ事

調査掛(支部)

文書往復ノ事

諸應接ノ事

諸調査ノ事

諸集會ノ事

移住手續指示等ノ事

其他會計掛ニ屬セサル事項

第四章 會計





北海道殖民課編纂  
 目次 土地貨下 住民小屋掛 住民湖墾 住民伐木 北越殖民社  
 開墾 新十津川 瀧川 山鼻兵村 岩見澤 白石村 兩龍農場  
 札幌農園 札幌 小樽 室蘭 函館 上川市街 農平橋 空知  
 十 北海道 製麻株式會社 札幌停車場 石狩川 其他合セテ三  
 十一 美ナル石版畫ニ説明ヲ付シタルモノナリ  
 北海道殖民課編纂

定 價 金 五 錢  
 郵 稅 二 枚 迄 金 貳 錢

北海道移住問答  
 正 價 金 拾 五 錢  
 郵 稅 金 四 錢

北海道殖民課編纂  
 目次 氣候 殖民地 土地 開墾 農業 水産 牧畜 養蠶 林  
 業 鑛業 工業 實業 商業 交通 雜の部ヲ總タル書ナリ

正 價 金 拾 五 錢  
 郵 稅 金 四 錢

北海道移住案内  
 目次 北海道全圖 十勝國原野 既成區畫圖 移  
 住者の注意すべき條項 氣候 殖民地 區畫制度  
 土地貨下 開墾 農業 牧畜 養蠶 水産 教育  
 林 鑛業 工業 實業 商業 交通 衛生 教育  
 移住手續 移住費 特別 問合及ノ書籍下付  
 北海道協會 現行法規 北海道土地拂下規則  
 土地拂下郡長處分 水産物取締規則 統計表 四季  
 地拂下施行手續 水産物取締規則 統計表 四季  
 別氣象表 全年氣象表 霜雪の季節表 殖民地撰  
 定國別表 農作物收穫期節表 農産一段歩收穫表  
 春蠶期節表 農具代價表 郡村戸數表 諸備貸錢表 各  
 地物價表 農具代價表 郡村戸數表 諸備貸錢表 各  
 汽船賃金表 物價賃金表 北海道内外海路裡

正 價 金 拾 五 錢  
 郵 稅 金 四 錢

汽船賃金表

福島縣 高橋久右衛門著  
 近時我國養蠶事業ノ益々盛ナルニ隨ヒ之ニ關スル著書陸續刊行今  
 ヤ殆ント汗牛充棟モ管ナラスト雖モ其說ク所率子迷誤ト妄想トノ  
 境ニ沈溺シ其第一要旨タル經濟上ノ事ニ至テハ之ヲ忽諸ニ附シ去  
 テ復順ルモノナキカ如シ豈養蠶社會ノ一大憾事ニ非ヌヤ本書ハ二  
 十有餘年間斯業ニ從事シ非常ノ艱苦ト勉勵トヲ以テ遂ニ一新別法  
 ナ發明シ其名聲赫々タル福島縣伊達郡元大波村高橋久右衛門君ノ  
 著セル所ニシテ全書經濟主義ニ基キ現今ノ形勢ヨリシテ將來ヲ推  
 測シ新業ノ大ニ改良セザルベカラザル所以ト從來飼法ノ蠶性ニ反  
 シテ大ニ誤リアル所以トヲ論述セルモノナレハ此書一本以テ伊佛  
 シテ附録トシテ卷尾ニ蠶室構造法ヨリ詳細ノ飼育手續并ニ養蠶日誌  
 等ヲ附載セルカ故ニ苟モ此書ヲ一讀スルハ獨リ蠶業經濟ノ法ヲ  
 辨知スルノミナラス併セテ飼育ノ新法ヲ辨知シ遠慮無ク作等ノ災ニ  
 罹ルコトナク安然身ヲ蠶業ニ委テテ以テ幾倍ノ利益ヲ攫取センコト實  
 ニ易々タルノミ世ノ實業家并ニ志經國ニ存スル諸彦ハ乞フ一本ヲ  
 座右ニ置ケ

正 價 金 八 拾 錢  
 郵 稅 金 拾 錢

福島縣 高橋久右衛門述口

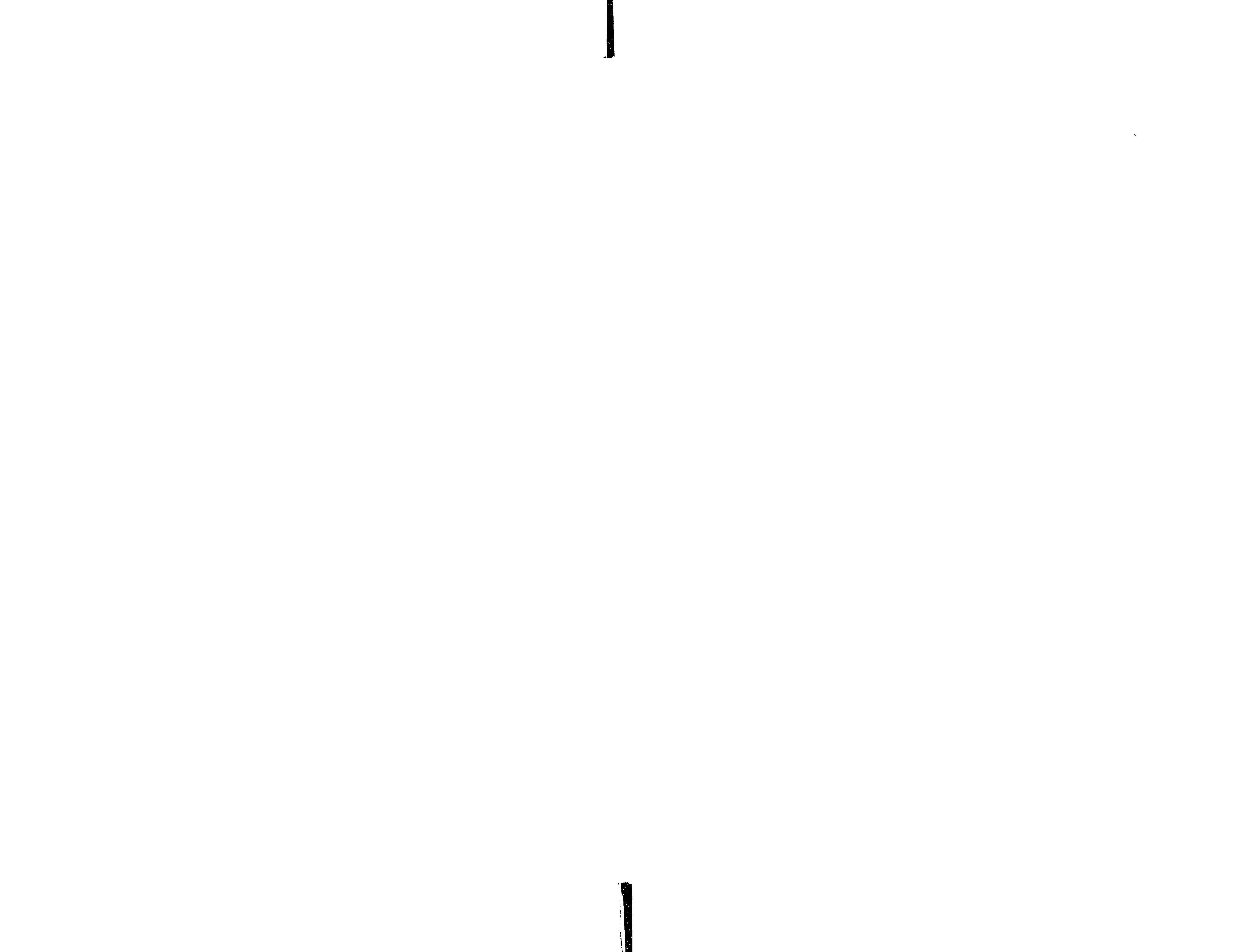
正 價 金 貳 拾 錢  
 郵 稅 金 四 錢

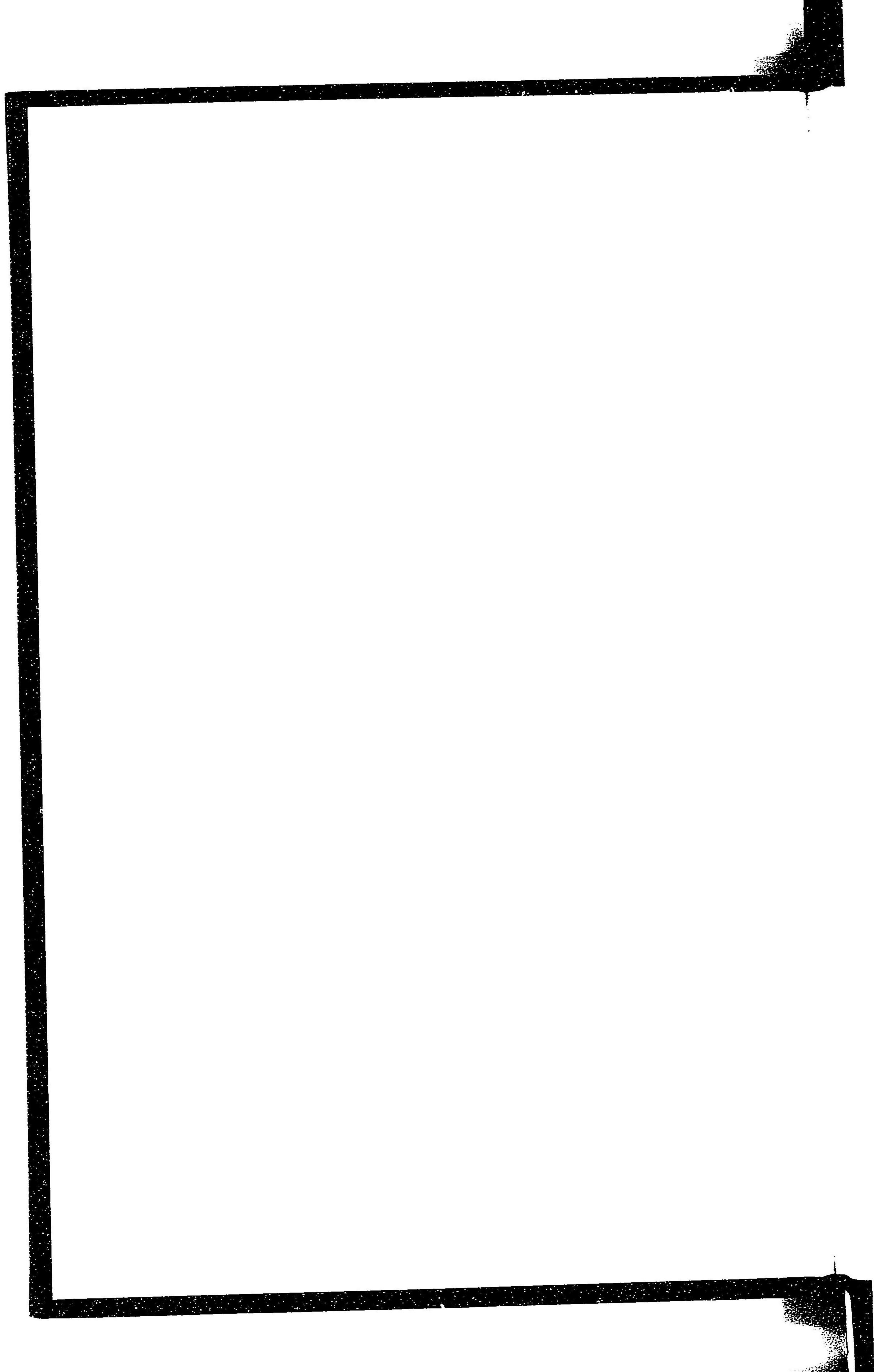
福島縣 大橋伊三郎著

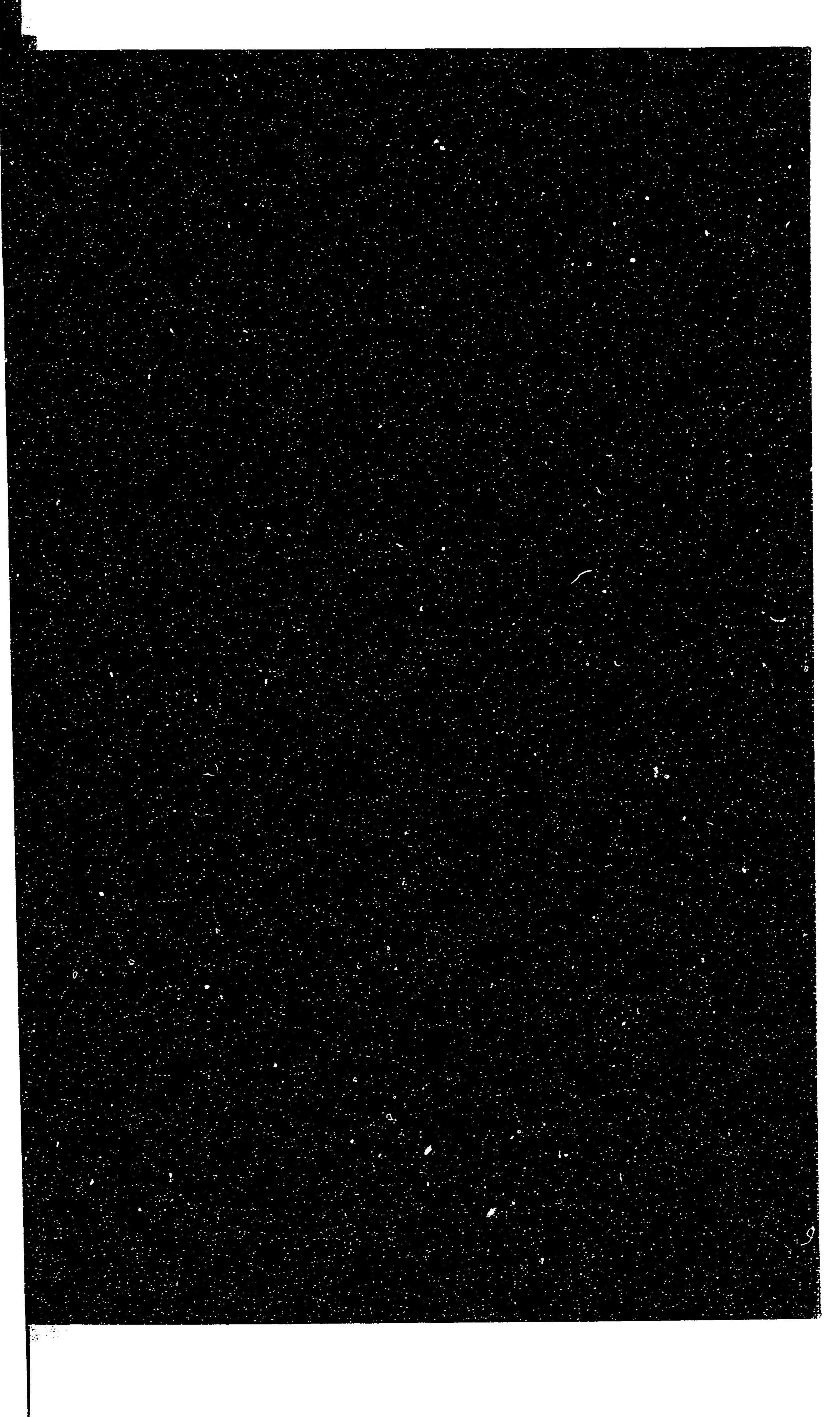
正 價 金 四 拾 錢  
 郵 稅 金 六 錢

蠶桑實驗書

正 價 金 四 拾 錢  
 郵 稅 金 六 錢







74  
180

041371-000-5

74-180

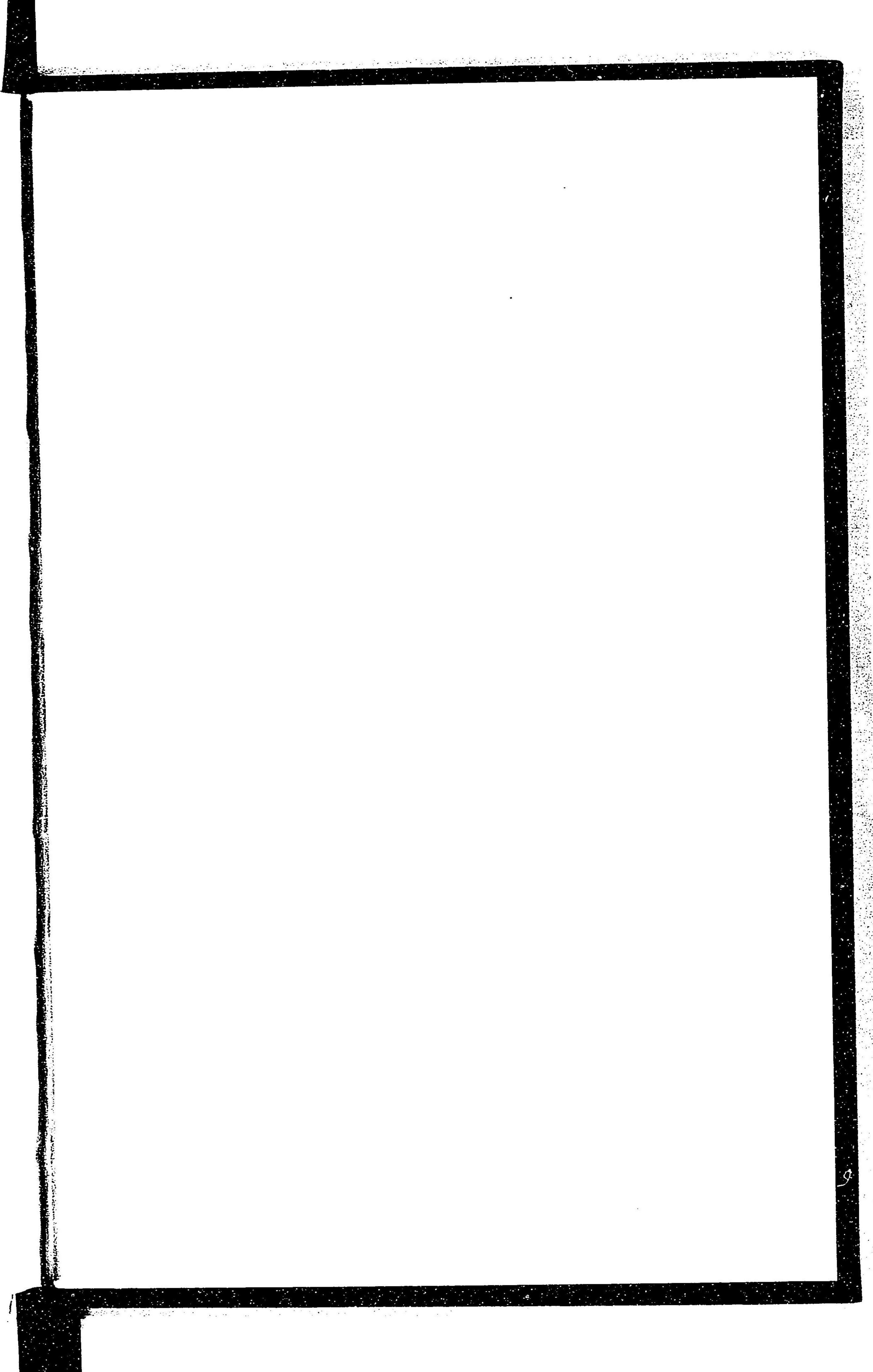
北海道移民必携

北海道協会支部／編

M29

BDG-0183





Vertical line on the left side of the page.

Vertical line in the center of the page.

